



Cisco Unity Express GUI アドミニストレータ ガイド

Cisco CallManager Express Release 2.1



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Cisco Unity Express GUI アドミニストレータガイド

Copyright © 2005 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



Cisco Unity Express 機能のロードマップ	1
プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ	2
Cisco Unity Express 機能のリスト	2
Cisco Unity Express ボイスメールと自動受付の概要	7
目次	7
Cisco CME で Cisco Unity Express を実装する前提条件	8
Cisco Unity Express を実装する際の制限	12
自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音	14
自動受付スクリプトの設定	14
AIM と NM の相違点	14
ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限	15
Cisco Unity Express とその他のボイスメール システムとのネットワーキング	17
管理インターフェイス	17
Cisco Unity Express と Cisco Unity の相違点	18
Cisco Unity Express と Cisco CME の相互作用	18
Cisco Unity Express と Cisco CME の相違点	19
その他のリファレンス	20
Cisco Unity Express に関連するドキュメント	20
関連する Cisco IOS ドキュメント	22
MIB	22
RFC	22
テクニカル サポート	22
Initialization ウィザードでのシステムの設定	23
Initialization ウィザードの概要	24
Initialization ウィザードの詳細	24
Initialization ウィザードに必要なコンフィギュレーション データ	25
アクティビティ タイマー	26
Initialization ウィザードのウィンドウのボタン	27
Cisco CME の Initialization ウィザードの起動	28

Cisco Unity Express でのログインとログアウト	41
ボイスメール管理への初めてのログイン	42
前提条件	42
手順	42
次の作業	44
Cisco Unity Express へのログイン	45
Cisco Unity Express からのログアウト	47
Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー	49
Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート	50
Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー	52
Home ウィンドウ	52
Configure メニュー	53
Voice Mail メニュー	54
Administration メニュー	55
Defaults メニュー	56
Reports メニュー	56
Help メニュー	57
Cisco Unity Express のアイコン	58
データの検索 : Find アイコン	60
データをアルファベット順に配列 : Sort アイコン	60
次の作業	62
管理タスクのシーケンス	63
オンライン ヘルプ	63
初期タスク	64
定期的なタスク	65
必要時のタスク	65
Cisco Unity Express のトラブルシューティング	67
IP アドレッシングの問題	68
バックアップまたは復元が機能しない	68
インストールが正しく機能しない	68
日付と時刻が正しくない	68
MWI ライトが正しく機能しない	68
設定が消える	69
間違っ た GUI レイアウト	69
自動受付プロンプト	69
付録 A : ソフトウェアの著作権とライセンス	71
索引	



表 1	リリース別の Cisco Unity Express 機能	2
表 2	NM-CUE および NM-CUE-EC におけるメールボックス、格納域の時間、ポート、スクリプト、プロンプトに対するシステムの容量	15
表 3	NM-CUE および NM-CUE-EC におけるメールボックス、グループ、所有者、およびメンバの最大数	15
表 4	AIM-CUE におけるメールボックス、格納域の時間、ポート、スクリプト、プロンプトに対するシステムの容量	16
表 5	AIM-CUE におけるメールボックス、グループ、所有者、およびメンバの最大数	16
表 6	Initialization ウィザードのウィンドウのボタン	27
表 7	Import Users ウィンドウのカラム	31
表 8	Initialization Wizard Status ウィンドウのフィールド	38
表 9	Configure メニューのオプション	53
表 10	Voice Mail メニューのオプション	54
表 11	Administration メニューのオプション	55
表 12	Defaults メニューのオプション	56
表 13	Reports メニューのオプション	57
表 14	Help メニューのオプション	57
表 15	Cisco Unity Express のアイコン	58
表 16	初期設定タスク	64
表 17	定期的な管理タスク	65
表 18	必要時の管理タスク	65



Cisco Unity Express 機能のロードマップ

『Cisco Unity Express GUI Administrator Guide for CallManager Express』では、Cisco Unity Express ボイスメールアプリケーションおよび自動受付アプリケーションを設定、管理、補充するための一連のグラフィカルインターフェイス画面を紹介しています。

それと同等のコマンド言語インターフェイスのコマンドについては、『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for CallManager Express』で説明されています。

このマニュアルでは、Cisco Unity Express アプリケーションに焦点を当てています。ここでは、Cisco ルータ、Cisco ネットワーク モジュール、または Cisco CallManager Express ルータのインストールについては説明していません。それらのトピックの詳細については、[P.20 の「その他のリファレンス」](#)を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ \(P.2\)](#)
- [Cisco Unity Express 機能のリスト \(P.2\)](#)

プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ

Cisco Unity Express アプリケーションは、Cisco IOS ソフトウェア コマンドと構造の似た一連のコマンドを使用します。ただし、Cisco Unity Express コマンドは、Cisco IOS 設定には影響しません。

Cisco Unity Express ハードウェア モジュールおよびプラットフォームは、操作に Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) のコマンドを使用します。

Cisco Unity Express ハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォームの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express Release 2.1.1](#)』を参照してください。



(注)

Cisco Unity Express モジュールを格納するルータに無停電電源 (UPS) を接続することを強くお勧めします。信頼できる任意の UPS 装置により、ルータおよび Cisco Unity Express モジュールの動作を維持するための電力が途切れずに済みます。電力消費は Cisco プラットフォームによって異なるので、装置の容量と実行時間を考慮に入れてください。Cisco Unity Express をシャットダウンするようルータに指示してからルータの電源を切るシグナリング メカニズムを UPS に組み込むことをお勧めします。

Cisco Unity Express 機能のリスト

表 1 に、Cisco Unity Express の機能をリリース別に示します。特定のリリースで導入された機能は、そのリリースおよびそれ以降のリリースで使用できます。

表 1 リリース別の Cisco Unity Express 機能

リリース	該当のリリースで導入された機能 ¹	機能の説明	機能のマニュアル
2.1	同報リスト	複数のユーザにメッセージを送信するため、ローカル ユーザとリモート ユーザのパブリック同報リストとプライベート同報リストを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から : P.54 の「Voice Mail メニュー」およびオンライン ヘルプを参照してください。 CLI から : 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』
	ブロードキャストメッセージ	特権を持つユーザがネットワーク上のすべてのユーザにメッセージを送信できます。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から : P.54 の「Voice Mail メニュー」およびオンライン ヘルプを参照してください。 CLI から : 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』
	休日と営業時間のスケジュール	発信者にオプションの自動受付グリーティングが自動的に再生されるよう、休日と営業時間のスケジュールを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から : P.54 の「Voice Mail メニュー」およびオンライン ヘルプを参照してください。 CLI から : 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』

表 1 リリース別の Cisco Unity Express 機能（続き）

リリース	該当のリリースで導入された機能 ¹	機能の説明	機能のマニュアル
	パスワードと PIN のセキュリティ強化	パスワードと Personal Identification Number(PIN) の最小長と有効期限を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から：P.56 の「Defaults メニュー」およびオンライン ヘルプ を参照してください。 CLI から：message URL 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』
	着信メッセージでの発信者 ID 情報のサポート	新規着信ボイスメール メッセージに対しメッセージエンベロープの一部として発信者 ID 情報を再生することを許可します。	『 Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 』
	ローカルディレクトリへのリモートユーザの追加	頻繁に電話がかかってくるリモート ユーザをローカル ディレクトリに追加します。この操作により、ローカル ユーザは、名前によるダイヤルを使用してリモート ユーザにボイスメールメッセージを宛先指定したり、リモート ユーザアドレスの音声名による確認を受信したりできます。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から：P.53 の「Configure メニュー」およびオンライン ヘルプ を参照してください。 CLI から：『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』
	リモートユーザからの vCard 情報に対するサポート	リモート ユーザからの vCard 情報でディレクトリ エントリを更新できるようにします。	『 Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 』
	シンプル自動受付スクリプト	シンプル aa_simple.aef スクリプトは、オプション、休日、営業時間のグリーティングの処理に使用できます。	『 Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 』
	削除されないボイスメッセージ	現在のボイス メッセージ取得セッションで削除されたボイスメール メッセージをユーザが復元できるようにします。	『 Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager, Release 2.1 』
	工場出荷時のデフォルト設定への復元	管理者がシステム全体を工場出荷時のデフォルト値に再設定できるようにします。	『 Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 』
	ポート密度の増加	512 MB の SDRAM を備えたネットワーク モジュールが、16 のボイス ポートをサポートするようになりました。300 MHz で動作する Advanced Integration Modules (AIM; 拡張統合モジュール) が、新規ルータ プラットフォームで 6 のポートをサポートするようになりました。	P.15 の「ソフトウェア ライセンスとファクトリセットの制限」
	General Delivery Mailbox (GDM; 共用メールボックス) の用途変更	GDM は、個人用メールボックスとして用途を変更できます。この操作により、各ライセンス レベルの個人用メールボックスの容量が増えます。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から：P.54 の「Voice Mail メニュー」およびオンライン ヘルプ を参照してください。 CLI から：『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1』
2.0	複数の言語をサポート	Telephone User Interface (TUI; 電話ユーザ インターフェイス) と自動受付プロンプトでは、ヨーロッパ フランス語、ドイツ語、ヨーロッパ スペイン語、アメリカ英語を使用できます。	P.25 の「Initialization ウィザードに必要なコンフィギュレーション データ」

表 1 リリース別の Cisco Unity Express 機能 (続き)

リリース	該当のリリースで導入された機能 ¹	機能の説明	機能のマニュアル
	ソフトウェア アップグレード プロセスの合理化	修正されたアップグレード プロセスにより、インストールの時間が短くなりました。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	AIM 上の格納域の増加	AIM フラッシュ格納域の容量が 512 MB から 1 GB に増え、14 時間のボイスメール メッセージ格納域をサポートするようになりました。	P.15 の「ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限」
	異なるルータ上の Cisco Unity Express と Cisco CallManager Express ソフトウェアの格納	あるルータにインストールされた Cisco Unity Express ソフトウェアが別のルータにインストールされた Cisco CallManager Express と通信します。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	複数のサイト間のネットワークング	Voice Profile for Internet Mail version 2 (VPIMv2) は、ネットワーク化メッセージとブラインド アドレスのために、Cisco Unity Express サイト間、および Cisco Unity Express と Non-Delivery Record (NDR) を備えた Cisco Unity との間のボイスメール メッセージの互換性をサポートします。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	Cisco CallManager Release 3.3(3)、3.3(4)、および 4.0(1) のサポート	コール制御およびユーザ インポート機能を処理するための、リモート システム上の Cisco CallManager JTAPI バージョンの自動検出機能。	—
1.1.2	NTP サーバ コンフィギュレーション サポート	新しいコマンドにより、NTP サーバのコンフィギュレーションが可能になりました。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
1.1	拡張統合モジュール (AIM) カード	AIM カードには、Intel Celeron 300 MHz プロセッサ、256 MB RAM、512 MB のコンパクトフラッシュ メモリ、PCI インターフェイスによるネットワーク接続、パラレル インターフェイスによるバックツーバック イーサネットを使用した Cisco IOS ソフトウェアおよびコンソールへのアクセスが装備されています。外部インターフェイスやケーブルは必要ありません。	『Installing Advanced Integration Modules in Cisco 2600 Series, Cisco 3600 Series, and Cisco 3700 Series Routers』
	Cisco Unity Express スクリプト エディタでのカスタム自動受付スクリプトの作成	スクリプト エディタは、自動受付 (AA) への着信通話を処理するためのカスタム スクリプトを作成します。カスタム スクリプトをアクティブにすると、Cisco Unity Express に付属しているデフォルト自動受付スクリプトが非アクティブになります。デフォルト スクリプトを変更することはできません。ネットワーク モジュール (NM) および AIM は最大 4 つのカスタム自動受付をサポートします。	『Cisco Unity Express Script Editor Guide』

表 1 リリース別の Cisco Unity Express 機能（続き）

リリース	該当のリリースで導入された機能 ¹	機能の説明	機能のマニュアル
	オプション自動受付グリーティングおよびプロンプト	必要に応じてアップロードまたはダウンロードできるオプション AA グリーティングおよびプロンプトを録音します。これらのオプショングリーティングおよびプロンプトは、Cisco Unity Express に付属しているデフォルトグリーティングおよびプロンプトに追加されます。NM は、最大 50 の代オプション プロンプトをサポートします。AIM は、最大 25 のオプション プロンプトをサポートします。	P.14 の「自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音」
	電話ユーザ インターフェイス (TUI) から Greeting Management System (GMS; グリーティング管理システム) へのアクセス	TUI からオプション AA グリーティングおよびプロンプト録音用のグリーティング管理システム (GMS) へのアクセス。管理特権を持つユーザは GMS にアクセスできます。	『Cisco Unity Express Voice Mail System - Quick Start Guide』
1.0	Linux ベースのソフトウェア	Cisco CallManager ルータに搭載されたモジュール カードにインストールされる Linux ベースのソフトウェア (サポートされるハードウェア プラットフォームとソフトウェアのプラットフォームについては、『Release Notes for Cisco Unity Express Release 2.1.1』を参照してください)。ソフトウェアには、オペレーティングシステム、アプリケーション ソフトウェア、注文されたライセンスの情報が含まれています。	—
	ネットワーク モジュール カード	Intel Low Power PIII 500 MHz プロセッサ、20 GB IDE ハードドライブ、バックツーバック イーサネットとコンソールを使用した Cisco IOS ソフトウェアへのアクセスを備えたネットワーク モジュール カード。外部インターフェイスやケーブルは必要ありません。	『Cisco Network Modules Hardware Installation Guide』の第 22 章
	注文可能なライセンス パッケージ	注文可能な 4 つのライセンス パッケージ。ライセンスは、各ボイスメール システムごとに注文する必要があります。各ライセンスで使用できるシステムの容量については、P. 15 の表 2 および P. 16 の表 4 を参照してください。	P.15 の「ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限」
	予備のモジュール	プレインストールされたソフトウェアおよびライセンスを備えた予備のモジュール。より大きい容量へアップグレードするには、ライセンスを購入してライセンス ファイルをダウンロードする必要があります。	P.15 の「ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限」
	ライセンスのアップグレードとダウングレード	あるライセンス サイズから別のライセンス サイズへアップグレードまたはダウングレードします。	P.15 の「ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限」
	2 つの管理インターフェイス	2 つの管理インターフェイス (P.17 の「管理インターフェイス」を参照してください)。	P.17 の「管理インターフェイス」

表 1 リリース別の Cisco Unity Express 機能（続き）

リリース	該当のリリースで導入された機能 ¹	機能の説明	機能のマニュアル
	Cisco CallManager Express での統合 GUI	Cisco Unity Express と Cisco CME の両方に対して統合された管理 GUI。統合されたインターフェイスで、電話番号や内線番号など、いくつかの Cisco CME パラメータを設定できます。	P.52 の「Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー」
	複数のサイトのバルク プロビジョニング	Cisco Unity Express によって提供されない CLI スクリプトを使用した複数サイトのバルク プロビジョニング。システムは個別に管理されます。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	IP ネットワーク内の任意の場所でのシステム アクセス	システムは IP ネットワークのどの場所でもアクセスできます。Cisco Unity Express インストーラが TFTP を使用している場合は、インストーラを実行しているサイトが TFTP サーバの近くにある必要があります。その他の機能はすべて FTP を使用するため、サーバは IP ネットワークのどの場所にあってもよいことになります。	『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	手動でのバックアップと復元	顧客ネットワーク内の任意の場所にある FTP サーバを使用した手動でのバックアップと復元。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から : P.55 の「Administration メニュー」およびオンライン ヘルプを参照してください。 CLI から : 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』
	トラブルシューティング用のシステム レポートとログ ファイル	レポートは Cisco Unity Express GUI 画面から使用できます。トラブルシューティングのレポートとファイルはすべて Cisco Unity Express CLI コマンドを使用して入手できます。	<ul style="list-style-type: none"> GUI から : P.56 の「Reports メニュー」およびオンライン ヘルプを参照してください。 CLI から : 『Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.0』

1. 特定のリリースで導入された機能は、そのリリースおよびそれ以降のリリースで使用できます。



Cisco Unity Express ボイスメールと自動受付の概要

Cisco Unity Express のボイスメール アプリケーションと自動受付アプリケーションは、Cisco CallManager および Cisco CallManager Express (CME) と連動して、中小規模の企業に次の機能を提供します。

- オンサイトまたはリモートの電話ユーザのボイス用メールボックスを作成し、維持します。Release 2.1 は最大 100 のメールボックスをサポートします。メールボックスの最大数は、Cisco Unity Express 用に購入したハードウェア モジュールとライセンス契約書によって異なります。
- 発信者が会社の電話番号をダイヤルしたときに再生され、発信者を特定の内線または従業員につなぐメッセージを録音し、アップロードします。

目次

- [Cisco CME で Cisco Unity Express を実装する前提条件 \(P.8\)](#)
- [AIM と NM の相違点 \(P.14\)](#)
- [自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音 \(P.14\)](#)
- [自動受付スクリプトの設定 \(P.14\)](#)
- [AIM と NM の相違点 \(P.14\)](#)
- [ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限 \(P.15\)](#)
- [Cisco Unity Express とその他のボイスメール システムとのネットワーキング \(P.17\)](#)
- [管理インターフェイス \(P.17\)](#)
- [Cisco Unity Express と Cisco Unity の相違点 \(P.18\)](#)
- [Cisco Unity Express と Cisco CME の相互作用 \(P.18\)](#)
- [Cisco Unity Express と Cisco CME の相違点 \(P.19\)](#)
- [その他のリファレンス \(P.20\)](#)

Cisco CME で Cisco Unity Express を実装する前提条件

Cisco Unity Express コンフィギュレーションを開始する前に、Cisco CME システムをインストールする必要があります。Cisco CME インストールを実行していない場合は、インストール担当者またはサポート担当者に連絡して、次の手順を完了するようにしてください。

1. Cisco CME および Cisco Unity Express のハードウェアをすべてインストールし、機能を確認します。
 - 電話機を接続して、Cisco CME ルータに登録させます。
 - Cisco CME ルータで、ネットワーク モジュール (NM) 用の Cisco IOS Release 12.3(4)T またはそれ以降のリリースおよび拡張統合モジュール (AIM) 用の Cisco IOS Release 12.3(7)T またはそれ以降のリリースが設定されていることを確認します。
 - Cisco CME がインストールされているのと同じルータに Cisco Unity Express NM または AIM をインストールします。
 - NM の場合は、Enable LED が点灯していることを確認します。



注意

Cisco 3745 ルータに AIM をインストールする場合は、AIM1 というラベルの付いた AIM スロットにインストールする必要があります。Cisco 3745 ルータで AIM0 というラベルの付いた AIM スロットに AIM をインストールすると、AIM が損傷する可能性があります。



(注)

Cisco Unity Express モジュールを格納するルータに無停電電源 (UPS) を接続することを強くお勧めします。信頼できる任意の UPS 装置により、ルータおよび Cisco Unity Express モジュールの動作を維持するための電力が途切れずに済みます。電力消費は Cisco プラットフォームによって異なるので、装置の容量と実行時間を考慮に入れてください。Cisco Unity Express をシャットダウンするようルータに指示してからルータの電源を切るシグナリング メカニズムを UPS に組み込むことをお勧めします。

Cisco IOS Release 12.3(4)T は、次のコンフィギュレーションがルータに追加された場合に UPS 装置への自動スイッチオーバーをサポートします。

```
line aux 0
privilege level 15
modem Dialin
autocommand service-module service-engine slot/0 shutdown no-confirm
```

ここで、*slot* は Cisco Unity Express モジュールのスロット番号です。

2. Cisco CME ソフトウェア機能をインストールし、確認します。
 - a. Cisco CME コンフィギュレーション Web ページにアクセスできる必要があります。
 - b. Cisco CME ルータ のフラッシュ メモリに次のファイルがあることを確認してください。これらは、Cisco Unity Express GUI の機能を制御します。
 - CiscoLogo.gif
 - Delete.gif
 - Plus.gif
 - Tab.gif
 - admin_user.html

```
– admin_user.js
– dom.js
– downarrow.gif
– ephone_admin.html
– logohome.gif
– normal_user.html
– normal_user.js
– sxiconad.gif
– telephony_service.html
– uparrow.gif
– xml-test.html
– xml.template
```

- c. Cisco CME 設定モードで次のパスを設定します。

```
Router(config)# ip http path flash:
```

show run コマンドでパスを確認します。

- d. `service-engine` インターフェイスで `ip unnumbered` コマンドを設定するには、ルータで Cisco IOS ソフトウェア コマンドを使用して、Cisco Unity Express モジュールへのスタティック ルートを作成します。たとえば、次のようになります。

```
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 91.91.19.1
ip route 10.3.6.128 255.255.255.255 Service-Engine1/0
```

この例で、10.3.6.128 は Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス、Service-Engine1/0 は Cisco Unity Express モジュールを格納するルータ スロットです。

- e. SIP ダイアル ピアが Cisco Unity Express モジュールを指すように設定されていることと、それが G.711 U-law と SIP Notify for DTMF Relay を指定し、VAD がオフになっていることを確認します。たとえば、次のようになります。

```
dial-peer voice 6000 voip <----- SIP dial-peer pointing to Cisco Unity Express
destination-pattern 6...
session protocol sipv2
dtmf-relay sip-notify
session target ipv4:10.3.2.100 <---- Cisco Unity Express IP address
codec g711ulaw
no vad
```

ダイアル プランをサポートする SIP ダイアル ピアの数適切に設定します。

- f. Cisco Unity Express と通信する FTP サーバは、受動 FTP 要求をサポートしている必要があります。FTP サーバでこの機能を設定するには、FTP サーバのマニュアルを参照してください。
- g. Cisco CME Web 管理者にユーザ ID とパスワードが設定されていることを確認します。たとえば、次のようになります。

```
telephony-service
.
.
.
web admin system name admin password user1
```

または、

```
web admin system name admin secret 5 encrypted-password
```



(注) コンフィギュレーションに Cisco Unity Express グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) を使用する場合は、Cisco CME インターフェイスでパスワードを使用して管理者ユーザ ID を設定します。GUI にはこのユーザとしてログインする必要があります。Cisco CME 内で管理者ユーザが作成されていない場合、管理者は Cisco Unity Express GUI で Initialization ウィザードを続行できません。Release 1.1 では、管理者はインストール手順で作成されます。

- h. 電話機とユーザを設定します。Cisco Unity Express CLI コマンドまたは GUI オプションを使用して、追加ユーザと電話機を作成することができます。CLI コマンドと GUI オプションを使用すると、Cisco CME データベース内に電話ユーザが作成されます。同期 CLI コマンドまたは GUI オプションを使用して、ユーザと電話機を Cisco Unity Express データベースにコピーしてください。

次のサンプル ephone-dn コンフィギュレーションおよび ephone コンフィギュレーションを使用して、電話機とユーザを手動で設定してください。

```
ephone-dn 1 <---- ephone dn configuration for a user
  number 8004
  name User1
  call-forward busy 6900
  call-forward noan 6900 timeout 10
  !
  !
ephone-dn 20 <---- ephone dn configuration for a group
  number 8801
  name Salesgroup
  call-forward busy 6900
  call-forward noan 6900 timeout 10
  !
  !
```

- i. メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンの内線およびオフの内線を設定します。電話の内線番号の長さを示すため、ワイルドカード文字(.)を DN に追加します。Cisco Unity Express は、Initialization ウィザードで Cisco CME から MWI DN をインポートする際にこれらのワイルドカードを必要とします。ワイルドカード文字が Cisco CME で設定されていない場合、DN は MWI 内線フィールドに使用可能な選択肢として表示されません。次の例を参考にしてください。

```
ephone-dn 30 <---- ephone-dn configurations for MWI on
  number 8000.... <---- valid MWI DN 4-digit extension
  mwi on
  !
  !
ephone-dn 31 <---- ephone-dn configurations for MWI off
  number 8001.... <---- valid MWI DN 4-digit extension
  mwi off
  !
  !
  !
ephone 1 <--- ephone configured for the ephone-dn configured above
  username "admin1" password null
  mac-address 0009.B7F7.556A
  button 1:1 2:20 3:21 4:22 5:23
```

3. (オプション) Cisco CME インターフェイスでユーザが作成されていない場合は、すべてのユーザ、グループ、それらの内線のリストを作成します。このリストにより、多数のユーザと内線を設定するタスクが容易になります。



(注) ボイスメール メッセージを受信するユーザごとにプライマリ内線番号を指定します。Cisco Unity Express は、番号 E.164 に対して MWI をアクティブにしません。

4. (オプション)自動受付アプリケーション用にオプション初期メッセージを作成します。デフォルトの初期メッセージが自動受付に付属しています。.wav ファイルで別のメッセージを作成し、それを自動受付コンフィギュレーションの一部としてインストールすることができます。詳細については、P.14 の「自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音」を参照してください。
5. (オプション) ビジネス上の要件に応じて、自動受付プロンプトのフローをカスタマイズします。詳細については、P.14 の「自動受付スクリプトの設定」を参照してください。
6. (必須)Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスを記録します。GUI にアクセスしてシステムを構成するには、この IP アドレスが必要です。

Cisco Unity Express を実装する際の制限

Cisco Unity Express Release 2.1 には次の制限があります。

ネットワーキング

- Cisco Unity Express は、ほかの Cisco Unity Express および Cisco Unity ボイスメール システムとのボイスメール ネットワーキングだけをサポートしています。その他のボイスメール システムに対するネットワーキング サポートは、Release 2.1 では利用できません。

システムの機能

- NM では、管理者特権を持つ 1 人とユーザ特権を持つ 4 人だけが GUI に同時にログインできます。AIM では、1 人の管理者と 2 人のユーザだけが GUI に同時にログインできます。
- 日付と時刻は NTP サーバによって決定され、Cisco Unity Express ソフトウェアで設定することはできません。Cisco Unity Express は、ネットワーク転送プロトコル (NTP) クライアントとして設定できます。詳細については、『*Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1*』の NTP コンフィギュレーションの項と NTP サーバ CLI を参照してください。
- Cisco Unity Express は、システムで一度に 1 つの言語をサポートします。選択できる言語は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語です。この言語は、電話ユーザ インターフェイス (TUI) のシステム プロンプトとグリーティングを制御します。管理インターフェイス (GUI および CLI) は、アメリカ英語だけで使用可能です。Cisco CallManager Express は電話機ディスプレイを制御します。これは、複数の言語で使用でき、Cisco Unity Express でサポートされる言語とは無関係です。

ボイスメール アプリケーション

- Cisco Unity Express は、ユーザごとに標準グリーティングとオプション グリーティングの 2 つのグリーティングをサポートしています。グリーティングの時間は、ユーザに割り当てられたメールボックス格納域に含まれます。

ハードウェアの制限

- ルータ シャーシごとに許可される Cisco Unity Express モジュールは、シャーシ内のモジュール スロットの数に関わらず、1 つだけです。
- AIM は、Cisco 3745 ルータ シャーシのスロット 0 にはインストールできません。
- NM の前面パネルのファースト イーサネット 0 ポートは Cisco Unity Express アプリケーションには使用されず、使用不能になっています。ファースト イーサネット 1 ポートは Cisco Unity Express ネットワーク モジュールをルータに接続します。これは、ネットワーク モジュール上で唯一のアクティブなファースト イーサネットです。
- NM 上のハード ディスクは置換できません。ネットワーク モジュールのハード ディスクがクラッシュした場合は、ネットワーク モジュールを置換する必要があります。
- Cisco Unity Express NM の online insertion and removal (OIR; 活性挿抜) は、Cisco 3745 ルータと 3845 ルータでだけ実行できます。置換モジュールは元のモジュールと同じタイプである必要があります。OIR は AIM には使用できません。



注意

ネットワーク モジュールまたは AIM フラッシュ メモリ カードを置換する必要がある場合は、ファイルの破損やデータの損失を避けるため、シャーシからモジュールを削除する前に Cisco Unity Express アプリケーションを手動でシャットダウンします。

バックアップと復元

Cisco Unity Express は、次のバックアップ機能と復元機能をサポートしません。

- スケジュールされたバックアップ操作および復元操作。適切なコマンドを入力すると、バックアップ手順と復元手順が開始されます。
- メッセージ格納域の一元的な配置。Cisco Unity Express バックアップ ファイルは、その他のメッセージストアとともに使用したり統合したりすることができません。
- 選択的なバックアップと復元。完全なバックアップ機能と復元機能だけを使用できます。個々のボイスメール メッセージまたはその他の特定のデータの格納や取得はできません。

その他の制限

- Cisco Unity Express は組み込まれたシステムであり、Linux システムへのアクセスは提供されません。ユーザがその他の Linux ベースのアプリケーションを Cisco Unity Express モジュールに追加することはできません。
- Cisco Unity Express は、ハードウェア インベントリを除き、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用した管理と構成をサポートしていません。
- Cisco Unity Express は、Cisco Networking Services(CNS)または Subnetwork Access Protocol(SNAP; サブネットワーク アクセス プロトコル) の自動プロビジョニングをサポートしていません。
- Cisco Unity Express は CiscoWorks configmaker をサポートしていません。

自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音

自動受付グリーティングおよびプロンプト ファイルを作成する 2 つの方法を次に示します。

- G.711 U-law, 8 kHz, 8 bit, Mono の形式で .wav ファイルを作成します。ファイルを 500 KB よりも大きくすることはできません。グリーティングの録音後、GUI オプション **Voice Mail > Prompts > Upload** または Cisco Unity Express CLI `ccn copy` コマンドを使用して、ファイルを Cisco Unity Express システムにコピーします。アップロード手順については、GUI オンラインヘルプ(OLH)または『[Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1](#)』を参照してください。
- TUI で AVT を使用して、グリーティングまたはプロンプトを録音します。AVT 電話番号をダイヤルし、オプションを選択してグリーティングを録音します。録音を終了したら、ファイルを保存します。AVT によって、Cisco Unity Express にファイルが自動的に保存されます。

AVT プロンプト ファイル名の形式は UserPrompt_DateTime.wav です。たとえば、UserPrompt_11152003144055.wav のようになります。CLI コマンドまたは GUI オプションを使用してファイルを PC にダウンロードし、ファイルの名前を有意な名前に変更し、ファイルを再び Cisco Unity Express にアップロードすることができます。

自動受付スクリプトの設定

Cisco Unity Express は、一連の自動受付プロンプトと、プロンプトへの発信者の応答を処理するための、スクリプトと呼ばれるプロセスを提供します。このスクリプトを編集して、特定の発信者の応答が異なる方法で処理されるようにすることもできます。たとえば、発信者が業務時間外に電話をかけてきた場合に、特定のメールボックスにボイス メッセージを残すよう案内することができます。

Cisco Unity Express に付属の Microsoft Windows ソフトウェア ベース スクリプト エディタ ソフトウェアを使用して、スクリプトの変更や新規スクリプトの作成を行います。ガイドラインと手順は、『[Cisco Unity Express Script Editor Guide](#)』を参照してください。

ファイルを 1 MB より大きくすることはできません。

スクリプト ファイルの作成後、ファイルを PC に保存します。CLI インターフェイスまたは GUI オプション **Voice Mail > Scripts** を使用して、スクリプト ファイルを自動受付アプリケーションにアップロードします。

AIM と NM の相違点

Cisco Unity Express は、AIM と NM の両方でサポートされています。Cisco Unity Express 機能は、どちらのモジュールでも同じように動作しますが、次の例外があります。

- AIM は、最大 50 のボイス用メールボックスと 8 時間分のボイス メッセージを格納する 4 ポート モジュールです。NM は、最大 100 のボイス用メールボックスと 100 時間分のボイス メッセージを格納する 8 ポート モジュールです。
- NM で `trace` コマンドまたは `log` コマンドを発行すると、データが自動的にディスクに保存されます。AIM では、トレースおよびログ データはフラッシュ メモリに保存されません。AIM フラッシュ メモリにデータを保存するには、Cisco Unity Express CLI コマンドを使用します。
- Cisco Unity Express は、AIM フラッシュ メモリの使用と消費のアクティビティを追跡します。この追跡は、NM には必要ありません。CLI コマンド `show interface ide 0` および GUI オプション **Reports > System** を使用すると、フラッシュ メモリ消費データが表示されます。

ソフトウェアライセンスとファクトリ セットの制限

ファクトリ セット システムの制限は、注文したライセンスによって決まります。NM-CUE と NM-CUE-EC の制限は、表 2 および表 3 に示されています。AIM-CUE の制限は、表 4 および表 5 に示されています。

表 2 NM-CUE および NM-CUE-EC におけるメールボックス、格納域の時間、ポート、スクリプト、プロンプトに対するシステムの容量

Cisco Unity Express ライセンス / ソフトウェア SKU	合計メールボックス 格納域 (時間数)	デフォルトメール ボックス サイズ (分数) ¹	同時ボイスメールと自動受付 ポート / セッションの数	スクリプト数	プロンプト数
SCUE-LIC-12CCM SCUE-LIC-12CME	100	353	8 (NM-CUE) 16 (NM-CUE-EC)	8	50
SCUE-LIC-25CCM SCUE-LIC-25CME	100	171	8 (NM-CUE) 16 (NM-CUE-EC)	8	50
SCUE-LIC-50CCM SCUE-LIC-50CME	100	92	8 (NM-CUE) 16 (NM-CUE-EC)	8	50
SCUE-LIC-100CCM SCUE-LIC-100CME	100	50	8 (NM-CUE) 16 (NM-CUE-EC)	8	50

1. デフォルト メールボックス サイズの計算には、共用メールボックス (GDM) の割り当てが含まれます。

表 3 NM-CUE および NM-CUE-EC におけるメールボックス、グループ、所有者、およびメンバの最大数

Cisco Unity Express ライセンス / ソフトウェア SKU	個人用メール ボックスの デフォルト数	共用メール ボックスの デフォルト数	メールボックス の合計数	グループ数	所有者数	メンバ数
SCUE-LIC-12CCM SCUE-LIC-12CME	12	5	17	20	400	880
SCUE-LIC-25CCM SCUE-LIC-25CME	25	10	35	20	400	1000
SCUE-LIC-50CCM SCUE-LIC-50CME	50	15	65	30	400	1000
SCUE-LIC-100CCM SCUE-LIC-100CME	100	20	100	40	400	1000

■ ソフトウェア ライセンスとファクトリ セットの制限

表 4 AIM-CUE におけるメールボックス、格納域の時間、ポート、スクリプト、プロンプトに対するシステムの容量

Cisco Unity Express ライセンス / ソフトウェア SKU	合計メールボックス 格納域 (時間数) ¹	デフォルトメール ボックス サイズ (分数) ²	同時ボイスメールと自動受付ポート/ セッションの数	スクリプト数	プロンプト数
SCUE-LIC-12CCM SCUE-LIC-12CME	14	28	4 (Cisco 2600XM、Cisco 2691) 6 (Cisco 2800 シリーズ、 Cisco 3700 シリーズ、 Cisco 3800 シリーズ)	4	25
SCUE-LIC-25CCM SCUE-LIC-25CME	14	13	4 (Cisco 2600XM、Cisco 2691) 6 (Cisco 2800 シリーズ、 Cisco 3700 シリーズ、 Cisco 3800 シリーズ)	4	25
SCUE-LIC-50CCM SCUE-LIC-50CME	14	7	4 (Cisco 2600XM、Cisco 2691) 6 (Cisco 2800 シリーズ、 Cisco 3700 シリーズ、 Cisco 3800 シリーズ)	4	25

- 記載されている格納域の値は、AIM-CUE に 1 GB のコンパクト フラッシュが備わっている場合です。512 MB のコンパクト フラッシュを備えた以前の AIM-CUE バージョンは、4.5 時間 (270 分) のメールボックス格納域をサポートしています。Cisco Unity Express 2.1 の使用に際しては、512 MB コンパクト フラッシュを備えた以前の AIM-CUE を、1 GB のコンパクト フラッシュを備えた AIM-CUE モジュールに変換することをお勧めします。
- デフォルト メールボックス サイズの計算には、共用メールボックス (GDM) の割り当てが含まれます。

表 5 AIM-CUE におけるメールボックス、グループ、所有者、およびメンバの最大数

Cisco Unity Express ライセンス / ソフトウェア SKU	個人用メール ボックスの デフォルト数	共用メール ボックスの デフォルト数	メールボックス の合計数	グループ数	所有者数	メンバ数
SCUE-LIC-12CCM SCUE-LIC-12CME	12	5	17	20	100	200
SCUE-LIC-25CCM SCUE-LIC-25CME	25	10	35	20	100	200
SCUE-LIC-50CCM SCUE-LIC-50CME	50	15	65	20	100	200

Cisco Unity Express とその他のボイスメールシステムとのネットワーキング

Cisco Unity Express は、別のサイトにあるボイスメールシステムと Cisco Unity Express とのネットワーキング機能をサポートします。ユーザは、Cisco CallManager または Cisco CallManager Express コール制御プラットフォームで設定された互換性のあるリモート ボイスメールシステム上のユーザとの間で、メッセージを送受信できます。サポートされるコンフィギュレーションを次に示します。

- Cisco Unity Express から Cisco Unity Express へ
- Cisco Unity から Cisco Unity Express へ
- Cisco Unity Express から Cisco Unity へ

ネットワーキング機能の設定の詳細については、『[Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1](#)』を参照してください。

管理インターフェイス

Cisco Unity Express には、2 つの管理インターフェイスがあります。

- グラフィカル ユーザインターフェイス (GUI): このユーザにわかりやすい Web ベースのインターフェイスを使用すると、すべてのボイスメール機能および自動受付機能の管理が可能になります。

GUI は、Web ベースのアプリケーションに慣れていて、Cisco IOS コマンド構造の経験があまりない管理者に向いています。

- コマンドライン インターフェイス (CLI): このテキストベースのインターフェイスには、GUI と同じ管理機能とコンフィギュレーション機能があります。インストール機能、アップグレード機能、トラブルシューティング機能は、CLI コマンドでだけ使用できます。管理者は、ルータへの telnet セッションによってこのインターフェイスにアクセスします。

CLI は、インストール担当者、サポート担当者、および Cisco IOS コマンド構造とルータに慣れたその他の担当者に向いています。これらの担当者にとっては、特にトラブルシューティング、スクリプト、多数のサイトのバルク プロビジョニングを実行する場合は、CLI を使用してシステムにアクセスする方が GUI を使用するよりも簡単です。CLI コンフィギュレーションの詳細については、『[Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1](#)』を参照してください。

GUI および CLI は、IP ネットワーク内の PC またはサーバからアクセスできます。GUI にアクセスするには、Microsoft Internet Explorer Version 6.0 以降のリリースを使用します。P.24 の「[Initialization ウィザードの概要](#)」を参照してください。Cisco Unity Express は、Netscape ブラウザをサポートしていません。CLI にアクセスするには、ルータへの telnet を実行し、`service-module` コマンドを使用します。

Cisco Unity Express と Cisco Unity の相違点

Cisco Unity Express は Cisco Unity とは別のアプリケーションですが、どちらも Cisco ボイス メッセージ製品ファミリに入っています。その相違点を次に説明します。

- Cisco Unity は、Microsoft Windows ベースのアプリケーションであり、Microsoft Windows オペレーティング システムのメッセージ インフラストラクチャを使用します。Cisco Unity Express は、Linux ベースのアプリケーションです。
- Cisco Unity は、通常、複数のサイトとネットワークを構成できる中心のロケーションに配置されます。Cisco Unity Express Release 2.1 は、ローカル ユーザにサービスを提供するスタンドアロン ロケーションに配置できます。

ただし、Cisco Unity Express システムは、Cisco Unity Express アプリケーションを格納するルータとの IP 接続がある任意のロケーションから管理できます。ネットワーク内のいくつかのサイトが Cisco Unity Express を使用している場合、それらは単一の PC またはサーバから個別に管理できます。管理者は、PC またはサーバでブラウザを開いて各サイトで GUI にアクセスするか、telnet セッションを開いて各サイトで CLI にアクセスします。

- Cisco Unity は 100 以上のメールボックスをサポートし、Cisco Unity Express は 100 以下のメールボックスをサポートします。
- Cisco Unity には、Cisco Unity Express Release 2.1 よりも大きい機能セットが備わっています。

Cisco Unity Express は Cisco Unity Release 3.1 ボイスメール プロンプト録音と、エンド ユーザに同一のボイスメール ルックアンドフィールを提供するプロンプト フローを使用します。

Cisco Unity Express と Cisco CME の相互作用

Cisco CME は、テレフォニー機能を制御するソフトウェアです。Cisco CME は、ネットワークで着信コールと発信コールを受信するルータ上にあります。Cisco CME には、着信コールと発信コールを送信すべきかどうかを決定するコール エージェントが含まれています。Cisco CME には、電話機ハードウェア識別、電話機に関連付けられた内線番号、システム上のユーザ、ログイン、転送宛先、コール処理機能、その他のシステム全体のパラメータなどを含む情報データベースがあります。

Cisco Unity Express は、ボイス メッセージ機能と自動受付機能を実装することによって Cisco CME を強化したアプリケーションです。Cisco Unity Express モジュールにはボイスメールおよび自動受付ソフトウェアが含まれています。システム インストール プロセスで、インストーラはこのモジュールを Cisco CME ルータに挿入します。Cisco Unity Express データベースには、ボイス用メールボックス、自動受付プロンプト、およびボイス メッセージに関する情報が含まれています。Cisco Unity Express データベースと Cisco CME データベースは、コールが正しく処理され、ボイス メッセージが適切に受信され保存されるように、同期されます。

統合された Cisco Unity Express と Cisco CME の管理ソフトウェアを使用すると、ボイスメールパラメータと自動受付パラメータ、および内線や電話などいくつかの Cisco CME パラメータを設定できます。初期化手順とコンフィギュレーション手順を進める際は、両方のデータベースに最新の情報が格納されるように、データを保存してください。

Cisco Unity Express と Cisco CME の相違点

Cisco Unity Express は Cisco CME とは別のアプリケーションですが、どちらも Cisco ボイス メッセージ製品ファミリに入っています。その違いを次に説明します。

- Cisco CME では、Web 管理者がルータおよびその他のシステム コンポーネントを設定する必要があります。Cisco CME ユーザと管理者は、Cisco CME データベースに保存されます。Cisco CME は、Web 管理者を電話ユーザとして扱いません。

Cisco Unity Express では、設定済みの Cisco CME ユーザを Cisco Unity Express データベースにコピーできます。Cisco CME 管理者 ID は、Cisco Unity Express データベースにコピーできないので、Cisco Unity Express の管理者 ID として割り当てることができません。



注意

GUI を使用してコンフィギュレーションを開始する前に、Cisco CME 管理者は、初期化フェーズで Cisco Unity Express にコピーして Cisco Unity Express 管理者として指定できるよう、少なくとも 1 人の電話ユーザを Cisco CME で設定する必要があります。初期化プロセスの完了後に Cisco Unity Express GUI へ再びログインするには、Cisco Unity Express 管理者のユーザ ID とパスワードが必要です。

- Cisco Unity Express では、ユーザ ID に使用できるのは、文字、数字、下線 (_)、ドット (.)、およびダッシュ (-) だけです。その他の文字を含む Cisco CME ユーザ ID を Cisco Unity Express データベースにコピーすることはできません。ユーザ ID は文字で始める必要があります。
- パスワードにスペースは使用できません。受け入れられるパスワード文字は、a ~ z の小文字、A ~ Z の大文字、0 ~ 9 の数字、および記号 - . , + = _ ! @ # \$ ^ * () ? / ~ < > & % です。
- Release 1.0 では、ユーザ ID とパスワードに大文字小文字の区別がありました。

その他のリファレンス

次の各項では、Cisco Unity Express に関連するリファレンスを示します。

Cisco Unity Express に関連するドキュメント

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco Unity Express の管理	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 • Cisco Unity Express GUI Administrator Guide for Cisco CallManager Express, Release 2.1 • Cisco Unity Express CLI Administrator Guide for Cisco CallManager, Release 2.1 • Cisco Unity Express GUI Administrator Guide for Cisco CallManager, Release 2.1 • Cisco Unity Express Command Reference, Release 2.1 • Release Notes for Cisco Unity Express Release 2.1.1
Cisco Unity Express ボイスメール スクリプト	Cisco Unity Express Script Editor Guide, Release 2.0
Cisco Unity Express ボイスメール エンド ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity Express Voice Mail System - Quick Start Guide, Release 2.0 • Cisco Unity Express Voice-Mail System User's Guide
Cisco モジュール ハードウェアのインストール	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Network Modules Hardware Installation Guide (第 22 章) • Installing Advanced Integration Modules in Cisco 2600 Series, Cisco 3600 Series, and Cisco 3700 Series Routers • Advanced Integration Module Quick Start Guide • Replacing Compact Flash Memory on Cisco AIM-CUE Advanced Integration Modules • AIM-CUE Slot Restriction on Cisco 3745 Routers
Cisco Unity Express ソフトウェアの著作権とライセンス	• P.71 の「付録 A : ソフトウェアの著作権とライセンス」
Cisco Unity Express 用の TAC (Technical Assistance Center) サポート ドキュメント	Technical Notes for Cisco Unity Express

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco CallManager	Release 4.1(2) : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Administration Guide, Release 4.1(2) • Cisco CallManager System Guide, Release 4.1(2) • Cisco CallManager Features and Services Guide, Release 4.1(2) Release 4.0(1) : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Administration Guide, Release 4.0(1) • Cisco CallManager System Guide, Release 4.0(1) • Cisco CallManager Features and Services Guide, Release 4.0(1) Release 3.3(4) : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Administration Guide, Release 3.3(4) • Cisco CallManager System Guide, Release 3.3(4) • Cisco CallManager Features and Services Guide, Release 3.3(4) Release 3.3(3) : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Administration Guide, Release 3.3(3) • Cisco CallManager System Guide, Release 3.3(3) • Cisco CallManager Features and Services Guide, Release 3.3(3)
Cisco CallManager Express	Release 3.2 : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Express 3.2 System Administrator Guide • Cisco CallManager Express 3.2 Command Reference • TAPI Developer Guide for Cisco CME/SRST • XML Developer Guide for Cisco CME/SRST • Integrating Cisco CallManager Express and Cisco Unity Express Release 3.0 : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Express System Administrator Guide 3.0 • Cisco CallManager Express Command Reference 3.0 • Cisco SRST System Administrator's Guide Version 3.0 • Integrating Cisco CallManager Express Versions 3.0 and 3.1 with Cisco Unity Express
Cisco Unity	<ul style="list-style-type: none"> • Networking in Cisco Unity Guide
Cisco ハードウェア プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco 2600 Series Hardware Installation Guide • Cisco 2600 series hardware configuration notes • Voice features on Cisco 2600 series routers • Cisco 2800 Series Hardware Installation • Cisco 3700 Series Hardware Installation Guide • Cisco 3700 series hardware configuration notes • Software Configuration Guide • Cisco 3800 Series Hardware Installation

関連する Cisco IOS ドキュメント

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コンフィギュレーション	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IOS Debug Command Reference, Release 12.3T • Cisco IOS Voice Command Reference, Release 12.3T  <p>(注) 一般的なボイス コンフィギュレーション項目は、『Cisco IOS Voice Configuration Library, Release 12.3』を参照してください。</p>
Cisco IOS コンフィギュレーション例	Cisco Systems Technologies Web サイト (http://cisco.com/en/US/tech/index.html)  <p>(注) Web サイトから、技術カテゴリとそれに続くサブカテゴリ階層を選択し、Technical Documentation > Configuration Examples をクリックします。</p>
Cisco IOS ボイス トラブルシューティング情報	Cisco IOS Voice Troubleshooting and Monitoring Guide
Cisco IP テレフォニー	IP Telephony Solution Reference Network Design Guide

MIB

MIB	MIB リンク
<ul style="list-style-type: none"> • CISCO-CUE-MIB 	選択したプラットフォーム、Cisco IOS Release、および機能セット用の MIB を検索してダウンロードするには、 http://www.cisco.com/go/mibs にある Cisco MIB Locator を使用してください。

RFC

RFC	タイトル
1869	<i>SMTP Service Extensions</i>
1893	<i>Enhanced Mail System Status Codes</i>
2045	<i>Multipurpose Internet Mail Extensions Part One: Format of Internet Message Bodies, RFC</i>
2421	<i>Voice Profile for Internet Mail - Version 2</i>
2821	<i>Simple Mail Transfer Protocol</i>

テクニカル サポート

説明	リンク
製品、テクノロジー、ソリューション、technical tips、およびツールへのリンクを含む、検索可能な 30,000 ページの技術コンテンツを含む TAC のホーム ページ。登録された Cisco.com ユーザは、このページからログインしてさらに別のコンテンツにもアクセスできます。	http://www.cisco.com/public/support/tac/home.shtml



Initialization ウィザードでのシステムの設定

ここでは、初期設定プロセスについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [Initialization ウィザードの概要 \(P.24\)](#)
- [Cisco CME の Initialization ウィザードの起動 \(P.28\)](#)



(注)

Web ブラウザとして Microsoft Internet Explorer Version 6.0 以降を使用する必要があります。Netscape ブラウザは Cisco Unity Express ではサポートされません。

Initialization ウィザードの概要

ハードウェアとソフトウェアのインストール後、Cisco Unity Express GUI を起動します。GUI を使用すると、ユーザ、ボイスメールボックス、ボイスメールおよび自動受付のその他の機能を設定できます。

ここでは、Initialization ウィザードを使用するために必要な手順と情報について説明します。次の項があります。

- [Initialization ウィザードの詳細 \(P.24\)](#)
- [Initialization ウィザードに必要なコンフィギュレーション データ \(P.25\)](#)
- [アクティビティ タイマー \(P.26\)](#)
- [Initialization ウィザードのウィンドウのボタン \(P.27\)](#)

Initialization ウィザードの詳細

Initialization ウィザードは、Cisco Unity Express の設定を支援する一連のウィンドウからなるソフトウェア ツールです。このウィザードは、GUI へ初めてログインしたときに自動的に起動します。

ウィザードのウィンドウに表示される情報の中には、Cisco CallManager または Cisco CallManager Express (CME) システムのインストール時に設定されたシステム パラメータからの情報もあります。次に例を示します。

- 電話ユーザとその内線番号
- IP アドレスと Cisco CME ルータ
- メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンおよびオフの電話番号

残りのウィザード情報は、Cisco Unity Express によって計算されるデフォルト値、または指定する必要がある値です。次に例を示します。

- Cisco Unity Express 管理者のユーザ ID とパスワード
- メールボックスを割り当てる必要があるユーザ
- 各ユーザ、特に複数の内線番号を持つユーザのプライマリ内線番号
- 管理特権を割り当てられるユーザ
- Call Forward No Answer (CFNA) 特権または Call Forward Busy (CFB) 特権を割り当てられるユーザ
- 新規メールボックスのサイズ
- ボイスメール メッセージの最大長
- システムにメッセージを保存できる時間の長さ
- パスワードと Personal Identification Number (PIN) のどちらが新規ユーザに必要なか
- ボイスメール システム、自動受付システム、オペレータ、および AVT にアクセスするための電話番号

これらの値の詳細については、次の項の「[Initialization ウィザードに必要なコンフィギュレーション データ](#)」を参照してください。

ウィザードのウィンドウで必要なデータをすべて入力すると、システムによって Cisco Unity Express および Cisco CallManager または Cisco CME のデータベースが更新され、新しい情報が反映されます。この時点で、システムにログインして、任意のユーザ、メールボックス、またはシステム コンポーネントの情報を追加または変更できるようになります。

Initialization ウィザードに必要なコンフィギュレーション データ

次の情報を求める一連のウィンドウが表示されます。

- (必須) Initialization ウィザードを起動するには、Cisco Unity Express アプリケーションを含むモジュールの IP アドレスが必要です。
- (必須) Cisco CME Web 管理者のユーザ名とパスワード。

Cisco CME では、管理者がルータおよびその他のシステム コンポーネントを設定する必要があります。システム インストーラは、システムへのログインに使用されるユーザ ID とパスワードを作成し、Cisco CME ハードウェアおよびソフトウェア パラメータを設定します。

Cisco CME は、この管理者を電話ユーザとして扱いません。

Cisco CME 管理者は、Cisco Unity Express を設定できません。インストール後のプロセスで、システム インストーラは、Cisco Unity Express ソフトウェアにログインして Cisco Unity Express アプリケーションとその他のパラメータを設定する管理者のユーザ ID とパスワードを作成します。

- (必須) 各電話ユーザの名前、ユーザ ID および内線番号、ユーザにボイスメールボックスが必要かどうか、どのユーザが管理者として識別されるか。管理者は ボイスメール パラメータと自動受付パラメータにフルアクセスできます。管理者以外のボイスメール ユーザは、システム設定タスクへのアクセスが制限されます。

ユーザが Cisco CallManager または Cisco CME ソフトウェアで設定されている場合もあります。それらのユーザの一部またはすべてを Cisco Unity Express データベースにコピーできます。

ユーザまたは内線番号によっては、ボイスメールボックスが必要ない場合もあります。たとえば、ロビーの内線番号、会議室の内線番号、または来客室の内線番号にはメールボックスを割り当てるべきではありません。メールボックス格納域が効率的に使用されるように、各内線番号の目的を注意深く確認してください。

- (必須) 内線で Call Forward No Answer/Call Forward Busy (CFNA/CFB) 機能を使用可能にするユーザ。
- (必須) パスワードと Personal Identification Number (PIN) を処理するポリシー。



- (注) ボイスメール システムのセキュリティのレベルを決める必要があります。新規ユーザに GUI へアクセスするためのパスワードやボイスメールボックスへアクセスするための PIN を要求することにより、不正なユーザがシステムや別のユーザのメールボックスにアクセスしにくくなります。一方、パスワードや PIN を割り当てなければ、ユーザがシステムやメールボックスに初めてアクセスするのが容易になります。

Cisco Unity Express が新規ユーザごとにランダム パスワードとランダム PIN を生成するか、あるいはパスワードと PIN を空白にするかを決定します。どちらの場合も、新規ユーザおよび Cisco CallManager または Cisco CME からコピーされた各ユーザは、システムに初めてログインしたときにパスワードと PIN を変更する必要があります。

- (オプション) ボイスメール システムにアクセスしたときにユーザが聞くデフォルト言語。
デフォルト言語は、英語、ヨーロッパ フランス語、ドイツ語、またはヨーロッパ スペイン語で、Cisco Unity Express の購入時に選択されます。
- (オプション) デフォルト メールボックス サイズ。
メールボックス サイズは、ユーザのボックスに保存される全メッセージの合計秒数を表しません。Cisco Unity Express は、システム上のメールボックスの最大数と最大格納域に基づいてデフォルト値を計算します。デフォルトよりも多い格納域または少ない格納域を必要とする個々のユーザに対して、サイズ値を変更できます。

- (オプション) デフォルト メッセージ長。
メッセージ サイズは、ボイスメールボックス内に保存されるメッセージの最大秒数を示します。発信者がそれよりも長いメッセージを残そうとすると、最大時間に達したときに通話が切断されます。Cisco Unity Express は、メールボックスのデフォルト格納域に基づいてデフォルト値を計算します。デフォルトよりも長いメッセージを必要とする個々のユーザに対しては、長さの値を変更できます。
- (オプション) デフォルト メッセージ格納時間。
メッセージ格納時間は、システムが古いメッセージを保存しておく日数です。メッセージがこの格納時間に近づくと、システムは、再保存しないとメッセージが削除されることをユーザに知らせます。ユーザが何の操作もせず最大格納時間に達した場合、システムはメッセージを削除します。
- (必須) 次の電話番号。
 - ボイスメール システム
ユーザがボイスメールシステムの電話番号をダイヤルすると、ボイスメッセージを聞くことができます。
 - ボイスメール オペレータの内線番号
ボイスメールシステムで、ユーザがボイスメール オペレータの内線番号をダイヤルすると、ボイスメール オペレータにつながります。
 - 自動受付
発信者が自動受付の電話番号をダイヤルすると、自動受付システムにつながります。
 - 自動受付オペレータの内線番号
自動受付アプリケーションは、発信者がオペレータ用の「0」を押すと、自動受付オペレータの内線番号をダイヤルします。
 - Administration via Telephone (AVT) 番号
管理者は、AVT にアクセスしてプロンプトやグリーティングを作成する場合に AVT 番号をダイヤルします。



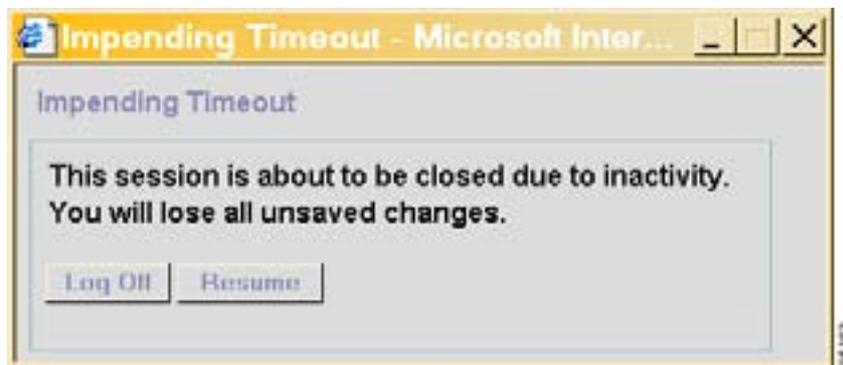
注意

ボイスメールの電話番号、自動受付の電話番号、および AVT 番号は固有の値である必要があります。固有でないと、ユーザはボイスメールシステム内でオペレータに電話をかけようとしても、ボイスメールシステムまたは AVT へ戻されます。また、外部の発信者がオペレータ用のボタンを押したときに、ボイスメールシステムまたは AVT へ接続される可能性があります。

- (オプション) MWI オンおよびオフの番号
MWI オンおよびオフの番号は、内線番号のメッセージ ウェイティング ライトのオンとオフを切り替えるため内線番号とともにダイヤルされます。これらの番号を Cisco CME インストール時に設定した場合は、Initialization ウィザード ウィンドウにそれが表示されます。これらの番号は初期化手順または後で変更できます。

アクティビティ タイマー

システムには、GUI が使用されているかどうかを確認するタイマーがあります。GUI の開始後、ウィンドウまたはフィールドにしばらくアクセスしないしていると、タイマーが時間切れになる少し前に次のウィンドウが表示されます。



Resume をクリックしないと、システムはユーザのアクティビティをキャンセルし、GUI からログオフさせます。保存されていないデータは失われます。Initialization ウィザードを実行する際は、適切なコンフィギュレーション情報がすべて入手可能であることを確認してください。

Initialization ウィザードのウィンドウのボタン

表 6 で、Initialization ウィザードのウィンドウで使用されるボタンについて説明します。その他の GUI ウィンドウでは、これらは使用されません。

表 6 Initialization ウィザードのウィンドウのボタン

ボタン	用途
Back	前のウィンドウに戻る場合にクリックします。
Next	次のウィンドウへ移動する場合にクリックします。
Finish	初期化手順を終了し、データベースにデータを保存する場合にクリックします。
Cancel	初期化手順を停止する場合にクリックします。データ入力は保存されません。
Help	ウィンドウのフィールドに関する情報を示すヘルプ ウィンドウを開く場合にクリックします。

Cisco CME の Initialization ウィザードの起動

Cisco CME システムの Initialization ウィザードを起動するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 PC で Web ブラウザ (Microsoft Internet Explorer Version 6.0 以降を推奨) を開きます。
- ステップ 2 Address ボックスで、`http://a.b.c.d/Web` と入力します。ここで、`a.b.c.d` はモジュールの IP アドレスです。ここに示されているように、`Web` は大文字と小文字を区別して入力してください。

Authentication ウィンドウが表示されます。



- ステップ 3 User Name フィールドで、Cisco Unity Express 管理者のユーザ ID を入力します。ユーザ ID には大文字小文字の区別があります。ユーザ ID を入力する際は、大文字と小文字を正しく使用してください。



(注) この管理者 ID とパスワードは、ソフトウェアのインストール プロセスでインストーラによって作成されたものです。この ID は、Cisco Unity Express へのログインにだけ使用され、電話ユーザとは見なされません。

- ステップ 4 Password フィールドへ Tab キーで移動するかまたはフィールドをクリックして、Cisco Unity Express 管理者のパスワードを入力します。パスワードには大文字小文字の区別があります。パスワードを入力する際は、大文字と小文字を正しく使用してください。パスワードの各文字に対してアスタリスク (*) が表示されます。

- ステップ 5 Login をクリックします。

Cisco Unity Express ウィンドウが表示されます。



このウィンドウから、次のオプションを使用できます。

- **View current settings** : このオプションを使用すると、Cisco CME ソフトウェアのインストール時に定義されたいくつかのシステム パラメータが表示されます。後述の [ステップ 6](#) を参照してください。
- **Run Initialization Wizard** : このオプションを使用すると、Initialization ウィザード コンフィギュレーション手順が開始されます。後述の [ステップ 8](#) を参照してください。
- **Skip Initialization Wizard and Log off** : このオプションは、Cisco Unity Express CLI コマンドインターフェイスを使用してシステム パラメータを設定する場合にだけ選択します。
- **Log off (Run Initialization Wizard later)** : このオプションを使用すると、Initialization ウィザードを起動せずにシステムからログオフします。Initialization ウィザードは後で実行できます。

ステップ 6 システム パラメータの現在の設定を表示するため、**View current settings** をクリックします。

Current Settings ウィンドウが表示されます。



これらの値は、Cisco CME アプリケーションのインストール時に設定されます。このウィンドウでこれらを変更することはできません。値を変更するには、Initialization ウィザードを実行してください。

ステップ 7 **Cancel** をクリックしてこのウィンドウを閉じます。Cisco Unity Express ウィンドウが再び表示されます。

ステップ 8 Initialization ウィザードを開始するため、**Run Initialization Wizard** をクリックします。

CallManager Express Login ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows the 'CallManager Express Login' window of the Cisco Unity Express Initialization Wizard. On the left, a 'Steps' sidebar lists: 1. CallManager Express Login (selected), 2. Import CCME Users, 3. Defaults, 4. Call Handling, and 5. Commit. The main area is titled 'CallManager Express Login' and contains the instruction: 'Enter the details of the Cisco CallManager Express that Cisco Unity Express will connect to. The user name and password will be used to authenticate while retrieving information from the Cisco CallManager Express.' Below this are three input fields: 'Hostname:' with the value '10.100.6.9', 'User Name *:', and 'Password *:'. A red asterisk note at the bottom states '* indicates a mandatory field'. At the bottom right, there are buttons for 'Back', 'Next', 'Finish', 'Cancel', and 'Help'. A small vertical number '103078' is visible on the far right edge.

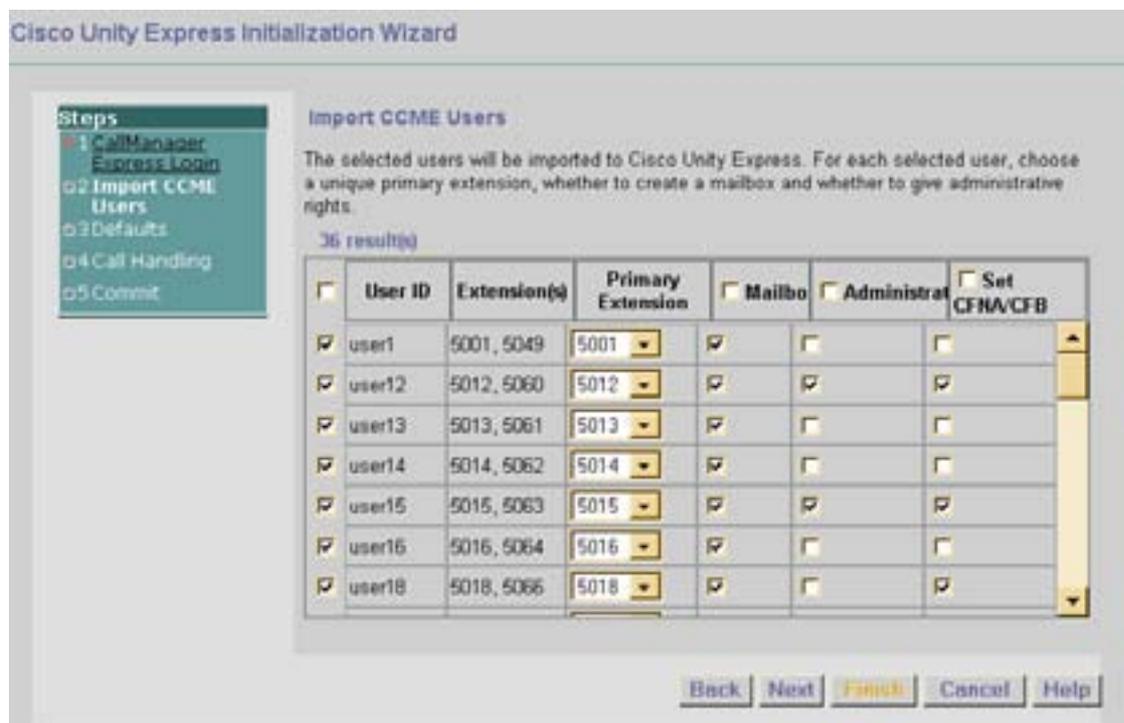
ステップ 9 Cisco CME ルータの IP アドレスが **Hostname** フィールドに表示されます。この値は Cisco CME のインストール時に設定されたものであり、ここで変更することはできません。

ステップ 10 User Name フィールドで、Cisco CME Web 管理者のユーザ ID を入力します。

ステップ 11 Password フィールドで、Cisco CME Web 管理者のパスワードを入力します。

ステップ 12 **Next** をクリックします。

Import CCME Users ウィンドウが表示されます。



このウィンドウを使用すると、Cisco CME で設定されたユーザデータを Cisco Unity Express データベースにコピーできます。このウィンドウには、Cisco CME ソフトウェアのインストール時に設定されたユーザがすべて表示されます。それらのユーザの一部またはすべてを Cisco Unity Express データベースにコピーできます。各ユーザ名の隣のチェックボックスは自動的にオンになります。

表 7 で、このウィンドウのカラムについて説明します。

表 7 Import Users ウィンドウのカラム

カラム	説明
User ID	電話ユーザの ID。
Extension(s)	ユーザに割り当てられた 1 つまたは複数の内線番号。
Primary Extension	ボイスメールボックスに割り当てる必要のあるユーザの内線番号。
Mailbox	ユーザのメールボックスを作成するオプション。
Administrator	1 人または複数のユーザに Cisco Unity Express システムのパラメータを設定する許可を割り当てるオプション。
Set CFNA/CFB	ユーザの Call Forward No Answer/Call Forward Busy 機能を使用可能にするオプション。

ステップ 13 次のいずれかを実行します。

- ユーザが表示されない場合は、[ステップ 19](#) へ進んでください。初期化プロセスの完了後、ユーザを設定します。
- ユーザがリストされた場合は、[ステップ 14](#) へ進んでください。

ステップ 14 ユーザ ID の隣にあるチェックボックスをオフにしない限り、リスト内の全ユーザが Cisco Unity Express データベースにコピーされます。ユーザの名前の左側にあるカラムで、次のいずれかを実行します。

- リスト内の全ユーザを Cisco Unity Express データベースにコピーする場合は、チェックボックスをオンにしたまま **ステップ 15** へ進みます。
- チェックボックスをオフにするには、Cisco Unity Express データベースにコピーしない各ユーザ ID の隣にあるチェックボックスをクリックします。Cisco Unity Express データベースに入っていないユーザには、ボイスメールボックスが割り当てられません。

ステップ 15 **Primary Extension** カラムで、ドロップダウン メニューを使用してそのユーザのプライマリ内線番号を選択します。

プライマリ内線番号は、ボイスメール メッセージの保存および取得のためのメールボックスです。ユーザにプライマリ内線番号が指定されていない場合、そのユーザはボイスメール メッセージを受信または取得できません。

このフィールドに **None** と表示された場合は、ユーザに対して表示される内線番号のどれもプライマリ内線番号ではないことを意味します。ここで、このユーザに対してメールボックスを指定することができますが、後でユーザのプライマリ内線番号を設定するまで、ユーザはそのメールボックスにアクセスできません。

ステップ 16 **Mailbox** カラムで、次のいずれかを実行します。

- 全ユーザのメールボックスを作成するには、**Mailbox** の隣にあるチェックボックスをオンにします。この操作により、カラム内の各ユーザのチェックボックスがオンになります。Cisco Unity Express は、初期化プロセスが完了時にメールボックスを作成します。



(注) このチェックボックスをオンにすると、リストに示される全ユーザに対してメールボックスが作成されます。**ステップ 14** で特定のユーザを選択した場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。

- 特定のユーザのメールボックスを作成するには、メールボックスを割り当てる各ユーザの **Mailbox** カラムでチェックボックスをオンにします。

ステップ 17 **Administrator** カラムで、次のいずれかを実行します。



(注) 管理者は、すべてのシステム コンフィギュレーション機能およびメンテナンス機能にアクセスできます。

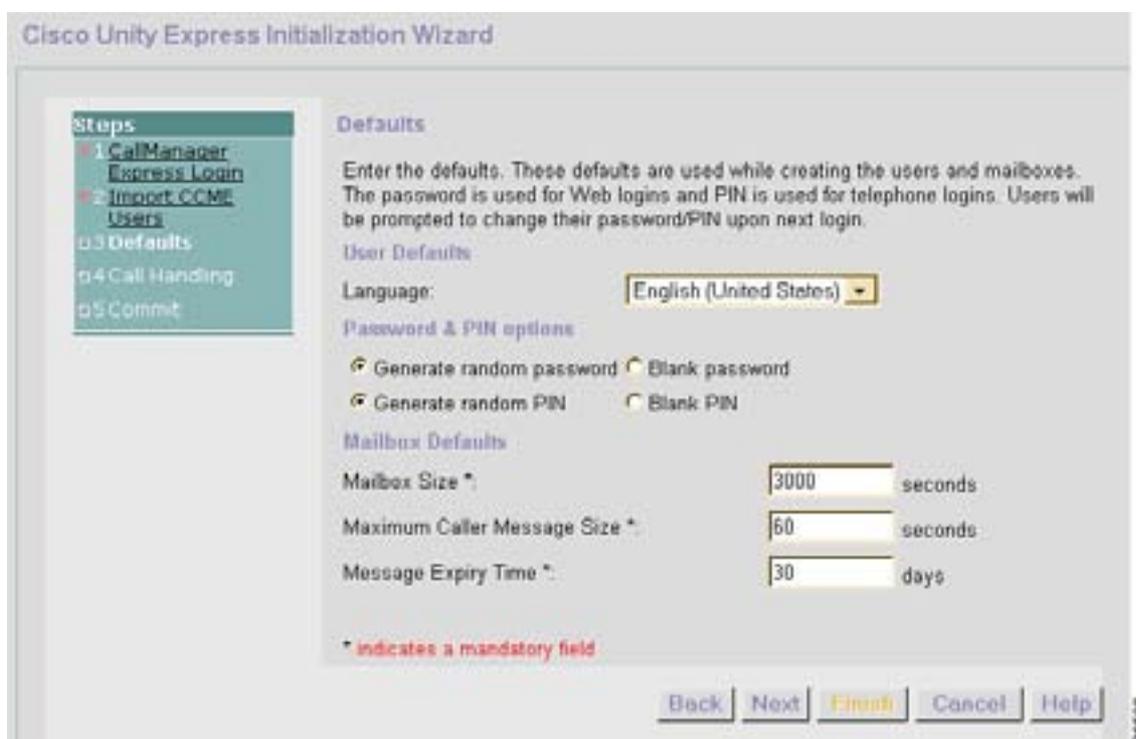
- すべてのユーザが Cisco Unity Express システムを設定できるようにするには、**Administrator** の隣にあるチェックボックスをオンにします。**ステップ 14** で特定のユーザを選択した場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。
- 特定のユーザがシステムを設定できるようにするには、この許可を与えるユーザの隣にある **Administrator** カラムのチェックボックスをオンにします。

ステップ 18 Set CFNA/CFB フィールドで、次のいずれかを実行します。

- すべてのユーザが Call Forward No Answer/Call Forward Busy 機能を使用可能にできるようにする場合は、Set CFNA/CFB の隣にあるチェックボックスをオンにします。ステップ 14 で特定のユーザを選択した場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。
- 特定のユーザが Call Forward No Answer/Call Forward Busy 機能を使用可能にできるようにする場合は、この許可を与えるユーザの隣にある Set CFNA/CFB カラムのチェックボックスをオンにします。

ステップ 19 Next をクリックします。

Defaults ウィンドウが表示されます。



このウィンドウに表示される値は Cisco Unity Express のデフォルト値です。これらの値は、ボイスメールシステム内のすべてのユーザおよびメールボックスに適用されます。

ステップ 20 Language フィールドは、電話ユーザに対して再生されるすべてのボイスメールシステムメッセージおよびプロンプトに使用される言語を示します。Release 2.0 以降では、Cisco Unity Express とともにお問い合わせいただいた言語が表示されます。

ステップ 21 Password & PIN options フィールドで、次の手順を実行します。



注意

ボイスメールシステムのセキュリティのレベルを決める必要があります。新規ユーザに GUI へアクセスするためのパスワードやボイスメールボックスへアクセスするための PIN を要求することにより、不正なユーザがシステムや別のユーザのメールボックスにアクセスしにくくなります。一方、パスワードや PIN を割り当てなければ、ユーザがシステムやメールボックスに初めてアクセスするのが容易になります。Cisco Unity Express が新規ユーザごとにランダムパスワードとランダム PIN を生成するか、あるいはパスワードと PIN を空白にするかを決定します。どちらの場合も、ユーザはシステムへ初めてログインしたときにパスワードと PIN を変更するよう求められます。

- デフォルトでは、各ユーザに対してランダム パスワードが生成されます。すべての新規ユーザのパスワードを空白にしておくには、オプション ボタン **Blank password** をクリックします。
- デフォルトでは、各ユーザに対して PIN が生成されます。すべての新規ユーザの PIN を空白にしておくには、オプション ボタン **Blank PIN** をクリックします。

次の 3 つのフィールドの値は、自動的にすべての新規メールボックスに割り当てられます。

ステップ 22 Mailbox Size フィールドに、各メールボックスに割り当てるメッセージの最大格納秒数を入力します。

ステップ 23 Maximum Caller Message Size フィールドに、ボイスメール システムに保存するメッセージの最大長の秒数を入力します。

ステップ 24 Message Expiry Time フィールドに、古いメッセージを保存しておく日数を入力します。メッセージの保存期間がこれに達したら、ユーザはそのメッセージを再保存または削除できます。

ステップ 25 Next をクリックします。

Call Handling ウィンドウが表示されます。

Cisco Unity Express CLI コマンドで事前に設定されていない場合、これらのフィールドは空白になります。



注意

Voice Mail Number フィールド、**Auto Attendant Access Number** フィールド、および **Administration via Telephone Number** フィールドには、異なる値を入力する必要があります。異なる値でないと、ユーザはボイスメール システム内でオペレータに電話をかけようとしても、ボイスメール システムまたは AVT へ戻されます。また、外部の発信者がオペレータに電話をかけようとしたときに、ボイスメール システムまたは AVT へ接続される可能性があります。

ステップ 26 **Voice Mail Number** フィールドに、ユーザがボイス メッセージを取得するためにダイヤルする電話番号を入力します。電話番号には、スペース、ダッシュ、ピリオドは使用できません。

ステップ 27 **Voice Mail Operator Extension** フィールドに、ボイスメール オペレータの内線電話番号を入力します。ボイスメール ユーザがこの内線番号をダイヤルすると、オペレータにつながります。

ステップ 28 (オプション) **Auto Attendant Access Number** フィールドで、発信者が自動受付にアクセスするためにダイヤルする電話番号を入力します。

ステップ 29 (オプション) **Auto Attendant Operator Extension** フィールドに、自動受付オペレータの内線電話番号を入力します。発信者がオペレータ用の「0」を押すと、自動受付によってこの内線番号がダイヤルされます。

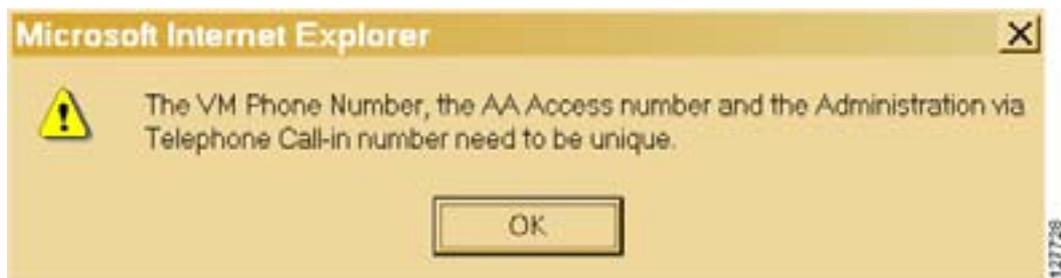
ステップ 30 (オプション) **Administration via Telephone Number** フィールドに、管理者が AVT にアクセスするためにダイヤルする電話番号または内線番号を入力します (管理者は、プロンプトやグリーティングを変更または作成する場合に AVT にアクセスします)。

ステップ 31 (オプション) **MWI on Number** フィールドに、別の内線番号を入力します。システムはこの内線番号をユーザの内線番号とともに使用し、ユーザの MWI ライトをオンにします。

ステップ 32 (オプション) **MWI off Number** フィールドに、別の内線番号を入力します。システムはこの内線番号をユーザの内線番号とともに使用し、ユーザの MWI ライトをオフにします。

ステップ 33 **Next** をクリックします。

Voice Mail Number、**Auto Attendant Access Number**、および **Administration via Telephone Number** フィールドのいずれか 2 つが同じ番号である場合は、エラー メッセージが表示されます。

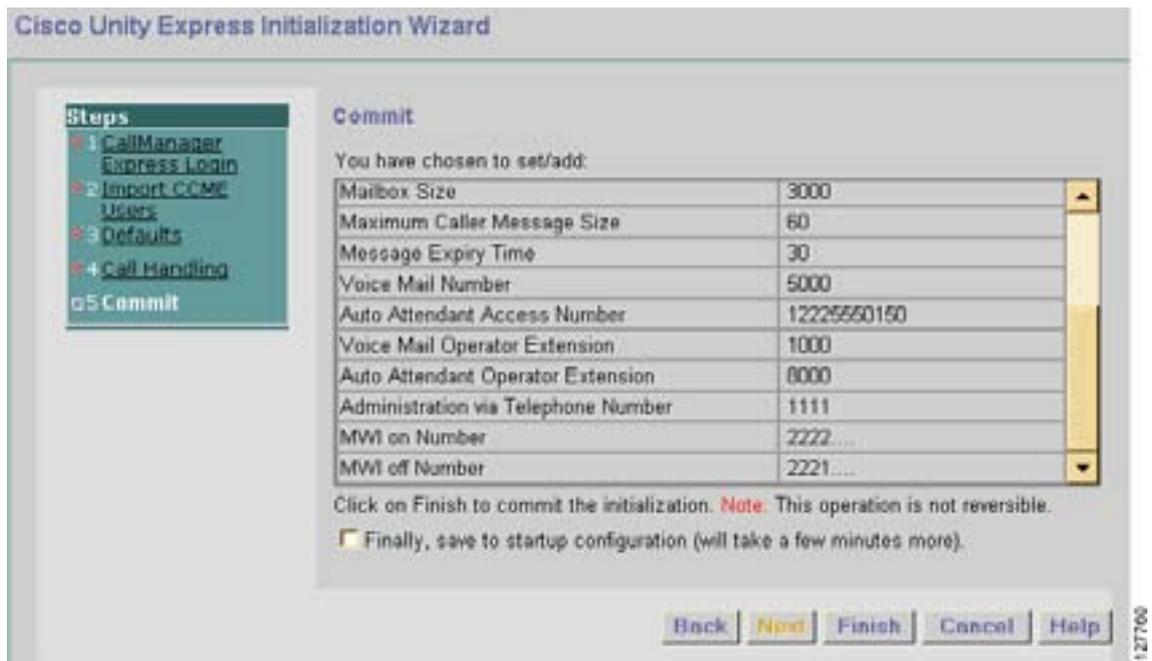


ステップ 34 **OK** をクリックし、[ステップ 26](#) ~ [ステップ 33](#) を繰り返します。

2 つの **Commit** ウィンドウのうち最初のウィンドウが表示されます。



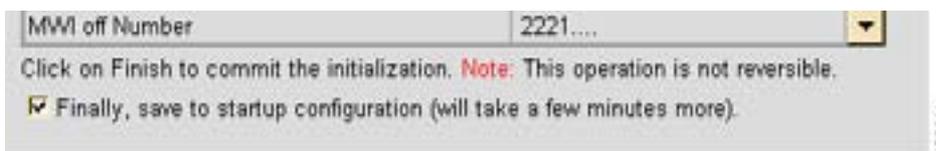
このウィンドウには、初期化パラメータの現在の値が表示されます。その他のパラメータを表示するには、スクロールバーを使用します。



この時点では、これらの値は Cisco Unity Express データベースに保存されていません。

ステップ 35 値が正しくない場合は、Back をクリックして必要なウィンドウに戻り、値を変更します。

ステップ 36 値がすべて正しければ、値を保存するため **Finally** の隣にあるチェックボックスをオンにします。



ステップ 37 **Finish** をクリックして初期化を完了します。

デフォルト値は Cisco Unity Express データベースに保存されています。Administrators グループが作成されます。



(注) これらのパラメータは、P.50 の「Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート」で説明されているその他のメニュー オプションを使用して変更できます。

Initialization Wizard Status ウィンドウが表示されます。

Cisco Unity Express Initialization Wizard Status

Help



Auto-generated authentication information:

User ID	Password	PIN
user1	agd652952	8807
user12	frz130506	0550
user13	vbm522770	3656
user14	chl187821	1310
user15	dqc516824	8811
user16	tcj485544	4009
user18	bwk697010	8492
user22	chx754575	4437

Defaults	Updated
User Creation	36 Success
Mailbox Creation	14 Success
Voicemail application creation	Success
Auto Attendant application creation	Success
Administration via Telephone application creation	Success
MWI application creation	Success
IOS CLI update	Success
Save to startup configuration	Success

[Logout](#)

12729

表 8 で、このウィンドウのフィールドについて説明します。

表 8 Initialization Wizard Status ウィンドウのフィールド

フィールド	説明
User ID	Cisco CME データベースからコピーされる各ユーザのログイン ID。
Password	各ユーザ ID に対して生成されるパスワード。Defaults ウィンドウで Blank Password を選択した場合、このカラムは空白になります。
PIN	各ユーザ ID に対して生成される PIN。Defaults ウィンドウで Blank PIN を選択した場合、このカラムは空白になります。
Defaults	メールボックスサイズ、メッセージの長さ、メッセージの有効期限、パスワードと PIN の生成、および MWI オンとオフの番号のステータス。
User Creation	Cisco Unity Express データベース内で選択した Cisco CME ユーザの作成のステータス。
Mailbox Creation	選択したユーザのボイスメールボックスの作成のステータス。
Voicemail application creation	ボイスメールシステムの初期化とボイスメールシステムの電話番号の保存のステータス。
Auto Attendant application creation	デフォルト自動受付アプリケーションの初期化と自動受付電話番号の保存のステータス。
Administration via Telephone application creation	AVT アプリケーションの初期化と AVT 電話番号の保存のステータス。
MWI application creation	MWI アプリケーションの初期化と MWI 内線番号の保存のステータス。
IOS CLI update	指定された内線番号での CFNA/CFB 機能の使用可能化など、Initialization ウィザードのフィールドに入力されたオプションおよび値での、対応する Cisco IOS CLI コマンドの更新のステータス。
Save to startup configuration	Initialization ウィザードのフィールドに入力されたオプションおよび値の、スタートアップコンフィギュレーションデータベースへの保存のステータス。



(注) ステータスフィールドのいずれかに **Failed** が表示される場合は、システムをインストールした担当者に問い合わせてください。

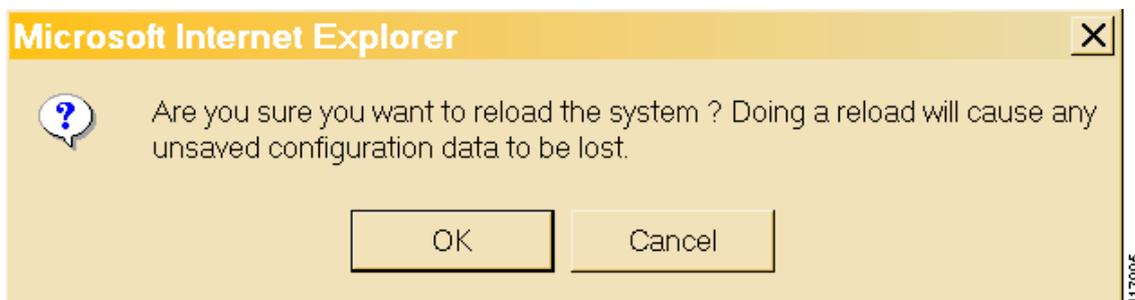
ステップ 38 各ユーザのユーザ ID とパスワードをメモしておいてください。それらを安全な場所に保管してください。

- 管理者のユーザ ID とパスワードを使用して Cisco Unity Express に再びログインします。
- これらのユーザ ID とパスワードをユーザに与えて、ユーザがそれぞれのボイスメールボックスにログインできるようにします。

ステップ 39 次のいずれかを実行します。

 (注) データベースを更新して Initialization ウィザードで入力したユーザおよび値を反映させるには、Cisco Unity Express をリロードする必要があります。

- **Logout** をクリックして Initialization ウィザードを終了します。Cisco Unity Express および Cisco CME がデータベースを更新してこれらのウィンドウで入力された値を反映することはありません。
- Cisco Unity Express および Cisco CME データベースを更新するには、**Reload Unity Express** をクリックしてください。確認ウィンドウが表示されます。



次のいずれかを実行します。

- **OK** をクリックしてリロードを開始します。データベースが更新される際、ウィンドウが一時停止する場合や、Logged Out ウィンドウが表示されてもしばらく応答しない場合があります。
- **Cancel** をクリックして、リロードせずに続行します。

Logged Out ウィンドウが表示されます。



ステップ 40 **Login again** をクリックして、GUI 管理環境を表示します。

パスワードを変更して Cisco Unity Express を起動する場合は、[P.42 の「ボイスメール管理への初めてのログイン」](#)を参照してください。



Cisco Unity Express でのログインとログアウト

ここでは、ログインとログアウトのプロセスについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [ボイスメール管理への初めてのログイン \(P.42\)](#)
- [Cisco Unity Express へのログイン \(P.45\)](#)
- [Cisco Unity Express からのログアウト \(P.47\)](#)



(注) Web ブラウザとして Microsoft Internet Explorer Version 6.0 以降を使用する必要があります。Netscape ブラウザは Cisco Unity Express ではサポートされません。

ボイスメール管理への初めてのログイン

ボイスメールシステムへ初めてログインする際は、次の手順を実行します。システムによって、新規パスワードを作成するよう求められます。

前提条件

Cisco Unity Express へ初めてログインする場合は、次の情報が必要になります。

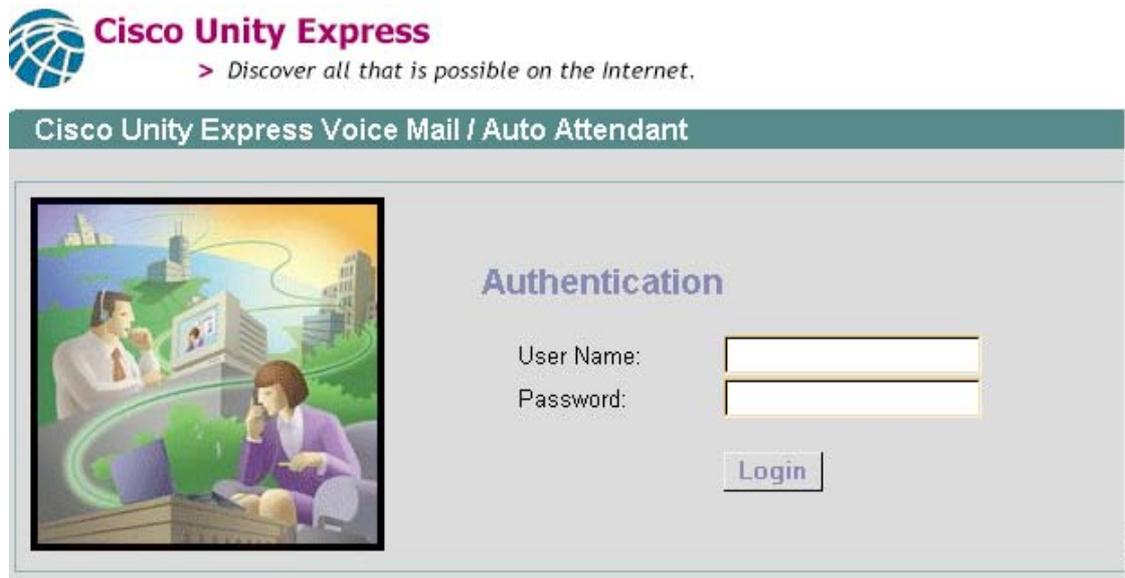
- Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス。
- 管理者が初期化手順でランダムパスワード生成オプションを選択した場合は、システムによって生成されたランダムパスワードが必要になります。空白パスワード オプションを選択した場合は、システムへのアクセスにパスワードは必要ありません。
- 文字、数字、特殊文字の下線 (_)、ドット (.) およびダッシュ (-) からなる 3 ~ 21 文字の新規パスワード。パスワードにスペースは使用できません。

手順

初めてログインする場合は、次の手順を実行します。

- ステップ 1 ブラウザを開き、<http://a.b.c.d/Web> と入力します。ここで、**a.b.c.d** はモジュールの IP アドレスです。ここに示されているように、**Web** は大文字と小文字を区別して入力してください。

Authentication ウィンドウが表示されます。



このウィンドウは、ログインしようとしているユーザが Cisco Unity Express システムで設定されていることを確認します。

Initialization ウィザードを完了したばかりの場合は **Authentication** ウィンドウにまだ反映されていないこともあります。システムがデータベースを更新して新規ユーザおよびシステム値を反映させるまでに、数分間かかる場合があります。

ステップ 2 User Name フィールドで、Cisco Unity Express 管理者として識別されるユーザのユーザ ID を入力します。このユーザ ID は、Initialization ウィザードを開始したユーザ ID とは異なります。ユーザ ID には大文字小文字の区別があります。ユーザ ID を入力する際は、大文字と小文字を正しく使用してください。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- システムによってランダム パスワードが生成される場合は、Password フィールドへ Tab キーで移動するかまたはフィールドをクリックして、初期化手順中に生成されたパスワードを入力します。
- システムによってランダム パスワードが生成されない場合は、ステップ 4 へ進みます。

ステップ 4 Login をクリックします。

ユーザ ID とパスワードが正しければ、Password Expired ウィンドウが表示されます。



ステップ 5 次のいずれかを実行します。

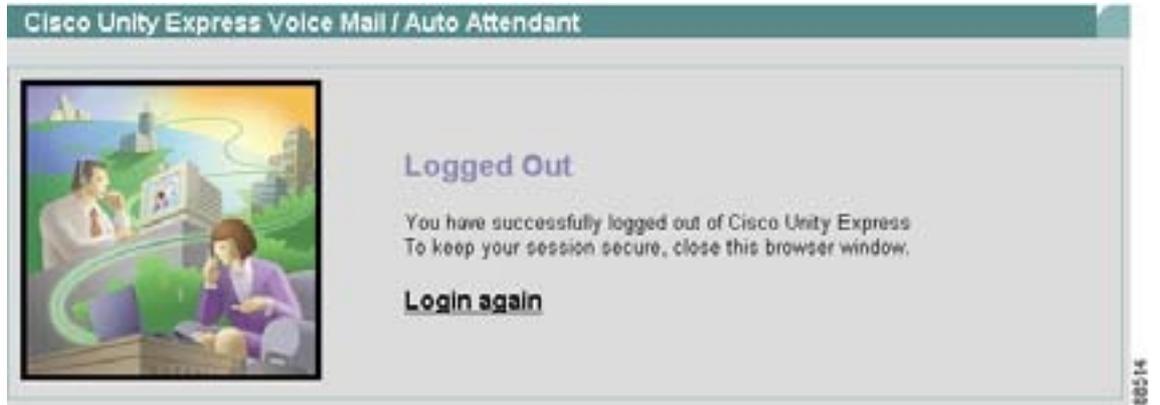
- ランダムに生成されたパスワードがある場合は、それを Current password フィールドに入力します。
- システムによってランダム パスワードが生成されない場合は、ステップ 6 へ進みます。

ステップ 6 New password フィールドに新規パスワードを入力します。大文字と小文字を注意して入力してください。

ステップ 7 Confirm new password フィールドで、ステップ 6 のパスワードを再入力します。

ステップ 8 Apply をクリックします。

Logged Out ウィンドウが表示されます。



- ステップ 9 **Login again** をクリックしてシステムに再度ログインします。新規パスワードを使用して GUI ウィンドウにアクセスします。

次の作業

システムへログインしたら、P.50 の「Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート」を参照してください。

Cisco Unity Express へのログイン

Cisco Unity Express へのログインは非常に簡単です。



(注) システムへ初めてログインする場合は、P.42 の「ボイスメール管理への初めてのログイン」を参照してください。

Cisco Unity Express へログインするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ブラウザを開き、`http://a.b.c.d/Web` と入力します。ここで、`a.b.c.d` はモジュールの IP アドレスです。ここに示されているように、`Web` は大文字と小文字を区別して入力してください。

Authentication ウィンドウが表示されます。



ステップ 2 **User Name** フィールドにユーザ ID を入力します。ユーザ ID には大文字小文字の区別があります。ユーザ ID を入力する際は、大文字と小文字を正しく使用してください。

ステップ 3 **Password** フィールドにパスワードを入力します。パスワードには大文字小文字の区別があります。パスワードを入力する際は、大文字と小文字を正しく使用してください。

ステップ 4 **Login** をクリックします。

ユーザ ID とパスワードが正しく入力されると、Home ウィンドウが表示されます。



すべてのボイスメール管理アクティビティが、このウィンドウのメニューを使用します。さまざまなメニューの詳細については、P.50の「Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート」を参照してください。

ユーザ名とパスワードが誤っていて、Cisco CME 上の現在の認証情報と異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。



(注) **Lost Contact** 画面が表示される場合は、Cisco Unity Express と Cisco CME システムの間にネットワーク接続の問題がある可能性があります。

Lost Contact 画面は、Cisco Unity Express データベースに保存されている Cisco CME Web 管理者およびパスワードと管理者のユーザ名およびパスワードが一致しない場合も表示されることがあります。これはたとえば、Cisco CME Web 管理者パスワードが Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) で変更されたが Cisco Unity Express が更新されていない場合などに発生します。

この問題を修正するには、Cisco CME でイネーブルパスワードが設定されていることを確認します。設定されていない場合、Cisco Unity Express は、telephony または telephony-service Cisco CME コマンドで設定されたパスワードと一致しないものも含め、あらゆるパスワードを受け入れます。

正しい Cisco CME ホスト名と IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードを入力します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、**Apply** をクリックします。

Cisco Unity Express からのログアウト

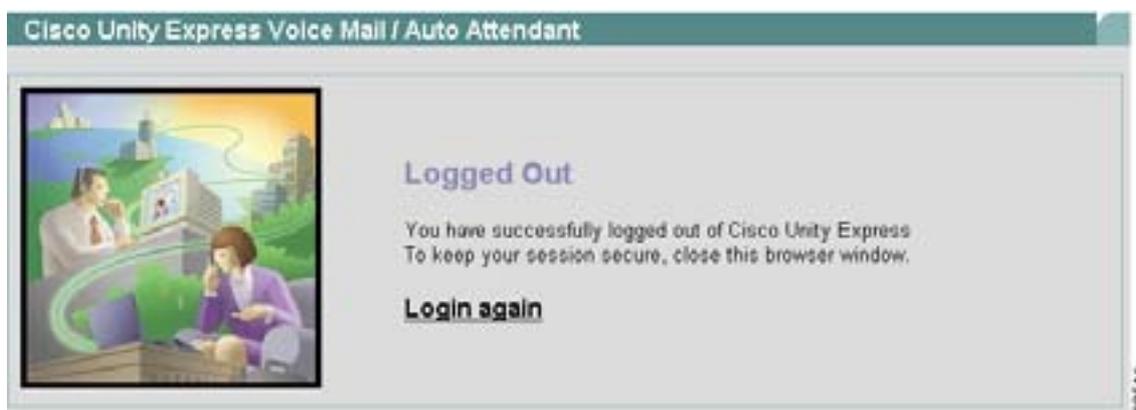
現在のタスク セットを終了したら、不正ユーザが管理機能にアクセスできないよう、Cisco Unity Express からログアウトします。

Cisco Unity Express からログアウトするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 システムからログアウトする前に、作業していたウィンドウへ変更を保存します (**Administration > Control Panel** オプションを使用してデータを保存します)。ログアウトしても、新規フィールド エントリは自動的に保存されません。
- ステップ 2 Cisco Unity Express からログアウトする用意ができたなら、Home ウィンドウの右上に移動して **Logout** をクリックします。



Logged Out ウィンドウが表示されます。



ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- **Login again** をクリックして管理ウィンドウを再び表示します。
- アプリケーションを閉じます。



Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー

ここでは、Cisco Unity Express ボイスメール システムで使用できるウィンドウ、メニュー、アイコンについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

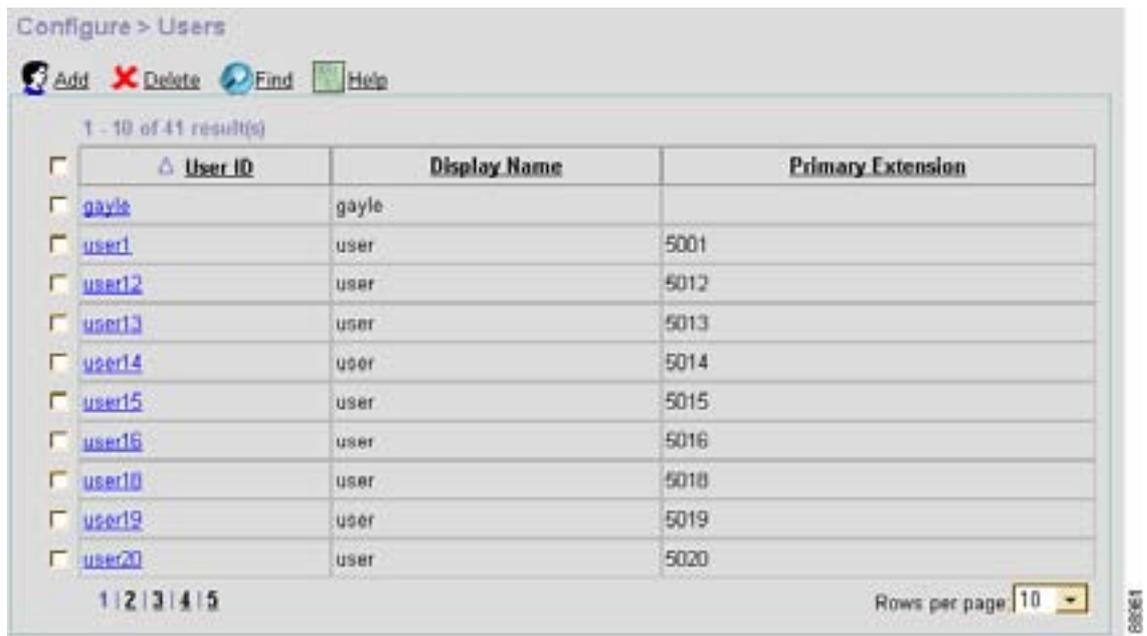
- [Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート \(P.50\)](#)
- [Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー \(P.52\)](#)
- [Cisco Unity Express のアイコン \(P.58\)](#)
- [次の作業 \(P.62\)](#)

Cisco Unity Express GUI ウィンドウのナビゲート

ボイスメール ソフトウェアは、それぞれドロップダウン メニューを備えたいくつかのオプションを含むメイン ツールバー上の管理タスクをグループ化します。各メニューから、データを選択または入力できるウィンドウへ移動できます。次の例を参考にしてください。



これらのオプションのいずれかをクリックすると、データを選択できるウィンドウが表示されます。次の例を参考にしてください。



Add をクリックすると、データを入力できるウィンドウが表示されます。次の例を参考にしてください。

Add a New User

Add Cancel Help

User ID *:

First Name *:

Last Name *:

Nick Name *:

Display Name*:

Primary E.164 Number:

Associated Phone: [Add/Edit](#) [Remove](#)

Primary Extension: None Other:

Language:

Password options:

Password:

Confirm Password:

PIN options:

PIN:

Confirm PIN:

Create Mailbox

Forward CFNA & CFB of extension (if configured) to Voice Mail number 5000

* indicates a mandatory field

127762

入力フィールドへ移動し、フィールド内をクリックするか、キーボードの **Tab** キーを使用します。

これらのウィンドウには、データの保存、項目の追加または削除、名前または番号の検索など、タスク アクティビティを支援するアイコンがあります。アイコンの詳細については、P.58 の「Cisco Unity Express のアイコン」を参照してください。

アイコンを確認したら、P.63 の「管理タスクのシーケンス」へ進みます。

Cisco Unity Express のウィンドウとメニュー

この項では、ウィンドウとメニューについて説明します。

Home ウィンドウ

Home ウィンドウは、Cisco Unity Express に初めてログインしたときに表示されます。



このウィンドウには、任意の Cisco Unity Express ウィンドウの右上にある **Home** をクリックすることによってもアクセスできます。



Configure メニュー

Configure メニューは、Home ウィンドウの **Configure** をクリックすると表示されます。



表 9 で、Configure メニューのオプションについて説明します。

表 9 Configure メニューのオプション

メニューのオプション	説明
Extensions	ユーザの内線番号を追加、変更、または削除します。
Phones	電話機を追加、変更、または削除します。電話機を内線番号に割り当てます。
Users	ユーザを追加、変更、または削除します。1 つまたは複数の内線番号をユーザに割り当てます。
Groups	ユーザのグループを追加、変更、または削除します。少なくとも 1 人のユーザをグループの所有者として割り当てます。
Remote Users	リモート ロケーションでユーザを追加、変更、または削除します。このオプションを使用するには、あらかじめ Cisco Unity Express データベースでリモート ロケーションが設定されている必要があります。 Administration > Networking Locations オプションを参照してください。
System Parameters	システム全体のパラメータを変更します。これらの値の多くは、Cisco SME のインストール時に設定されています。
CallManager Express	Cisco Unity Express に接続する Cisco CallManager Express ホスト名と SIP プロバイダー ホスト名を変更します。このオプションは、Web ユーザ名とパスワードも表示します。
My Profile	ほかの電話機のディスプレイに表示される名前、パスワード、および PIN を変更します。

Voice Mail メニュー

Voice Mail メニューは、Home ウィンドウで **Voice Mail** をクリックすると表示されます。

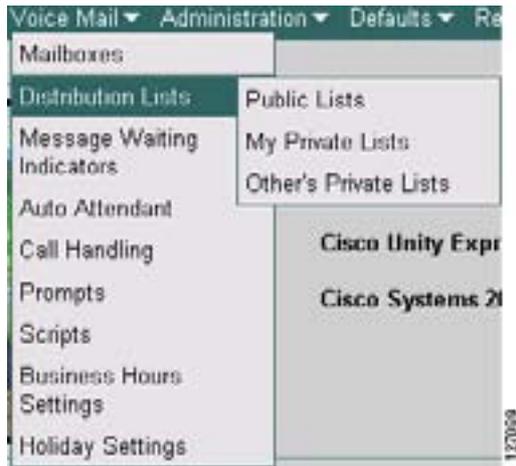


表 10 で、Voice Mail メニューのオプションについて説明します。

表 10 Voice Mail メニューのオプション

メニューのオプション	説明
Mailboxes	ボイスメールボックスを追加、変更、または削除します。ユーザまたはグループにメールボックスを割り当てます。すべてのユーザまたはグループが、ボイスメールボックスの割り当てを必要とするわけではありません。
Distribution Lists	パブリックまたはプライベート同報リストを追加、変更、または削除します。管理者グループまたは ViewPrivateList 特権を持つ任意のグループのメンバーだけが、特定のユーザに属しているプライベートリストを参照できます。
Message Waiting Indicators	1 つまたは複数の内線またはユーザの MWI を更新します。必要に応じて、MWI オンの内線と MWI オフの内線を変更します。
Auto Attendant	1 つまたは複数の自動受付を設定します。
Call Handling	ボイスメールアプリケーションにダイヤルするための電話番号、ボイスメール オペレータの内線、およびボイスメール アプリケーションと自動受付アプリケーションが処理できる同時コールの最大数を変更します。
Prompts	事前に録音されカスタマイズされた自動受付アプリケーション プロンプトを設定します。
Scripts	Cisco Unity Express スクリプト エディタを使用して作成され、カスタマイズされた自動受付アプリケーション スクリプトを設定します。
Business Hours Setting	会社が営業している曜日と時間のスケジュールを追加、変更、または削除します。
Holiday Settings	会社の祝日休業のスケジュールを追加または削除します。

Administration メニュー

Administration メニューは、Home ウィンドウの **Administration** をクリックすると表示されます。

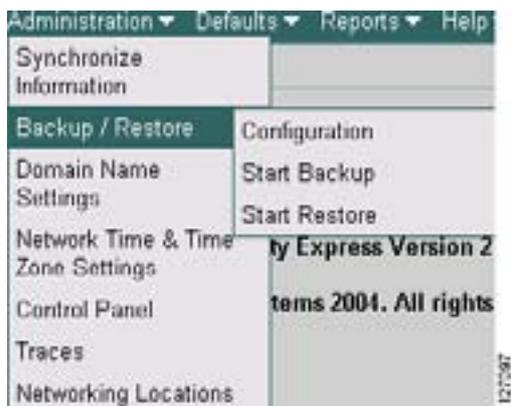


表 11 で、Administration メニューのオプションについて説明します。

表 11 Administration メニューのオプション

メニューのオプション	説明
Synchronize Information	Cisco CallManager Express データベースから Cisco Unity Express データベースへユーザおよびボイスメール情報の変更を伝えます。
Backup/Restore	バックアップパラメータと復元パラメータを設定し、FTP サーバなど、ほかのロケーションに対する Cisco Unity Express のデータおよび設定の変更を保存します。必要に応じて、保存したファイルを復元します。
Domain Name Settings	ホスト名、ドメイン名、DNS サーバを変更します。
Network Time & Time Zone Settings	Cisco Unity Express で日付と時刻に使用される NTP サーバを追加または削除します。ローカル タイムゾーンを変更します。
Control Panel	Cisco CallManager データと Cisco Unity Express データをフラッシュ メモリに保存するか、または Cisco Unity Express ソフトウェアをリロードします。
Traces	トレース データの生成用のカテゴリを設定します。このオプションは、Cisco Unity Express のトラブルシューティングに使用しません。
Networking Locations	あらゆるリモート ロケーションのローカル Cisco Unity Express ID およびパラメータを設定します。

Defaults メニュー

Defaults メニューは、Home ウィンドウの **Defaults** をクリックすると表示されます。



表 12 で、Defaults メニューのオプションについて説明します。

表 12 Defaults メニューのオプション

メニューのオプション	説明
User	システム全体のユーザパスワードおよび PIN 作成ポリシーを選択します (システム生成または空白)。ユーザは、GUI またはボイスメールシステムへ初めてログインしたときにこれらの値を変更します。
Mailbox	システム全体のメールボックスサイズ、発信者のメッセージの最大サイズ、およびメッセージの有効期限を割り当てます。これらは、すべての新規メールボックスに適用されます。特定のメールボックスについてこれらの値を変更することもできます。
Voice Mail	システム上のすべてのボイスメッセージに使用できる合計分数とユーザの発信メールボックス グリーティング用の最大秒数を割り当てます。

Reports メニュー

Reports メニューは、Home ウィンドウの **Reports** をクリックすると表示されます。



表 13 で、Reports メニューのオプションについて説明します。

表 13 Reports メニューのオプション

メニューのオプション	説明
Voice Mail	設定されたメールボックスの数、メッセージとグリーティングの数、使用するシステムの格納域を表示します。
System	システム ハードウェアおよび CPU に関する情報を表示します。
Backup History	バックアップ ファイル、バックアップ日、および成功ステータスを表示します。
Restore History	復元されたファイル、復元日、および成功ステータスを表示します。
Network Time Protocol	NTP サーバ、および NTP サーバと Cisco CallManager ルータ クロックの間の時間差を表示します。

Help メニュー

Help メニューは、Home ウィンドウの **Help** をクリックすると表示されます。

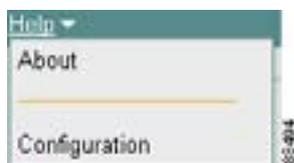


表 14 で、Help メニューのオプションについて説明します。

表 14 Help メニューのオプション

メニューのオプション	説明
About	Cisco CallManager ソフトウェアのバージョンおよびご使用の Cisco Unity Express システムのライセンス情報を表示します。
Configuration	Cisco Unity Express の設定に関するヘルプ ウィンドウを表示します。

Cisco Unity Express のアイコン

表 15 で、Cisco Unity Express ウィンドウで使用されるアイコンについて説明します。

表 15 Cisco Unity Express のアイコン

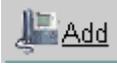
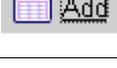
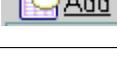
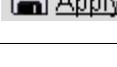
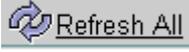
アイコン	用途
	新規ユーザを追加する場合やユーザをグループに追加する場合にクリックします。
	新規ボイスメールボックスを追加する場合にクリックします。
	新規内線番号を追加する場合にクリックします。
	新規 DNS サーバを追加する場合にクリックします。
	新規ネットワーク ロケーションを追加する場合にクリックします。
	会社のスケジュールに祝日を追加する場合にクリックします。
	新規営業時間スケジュールを追加する場合にクリックします。
	変更したデータを適用する場合にクリックします。データを保存するには、Save アイコンまたは Save Configuration オプションを使用します。
	アクティブなウィンドウを終了する場合にクリックします。データは適用されず、保存もされません。
	営業時間のスケジュールをコピーする場合にクリックします。
	事前に選択されたユーザ、内線、ボイスメールボックス、またはグループを削除する場合にクリックします。項目の左側にあるチェックボックスをオンにして、項目を事前に選択します。
	個人用にカスタマイズされたスクリプトまたはプロンプトを、自動受付から別のロケーションへダウンロードする場合にクリックします。

表 15 Cisco Unity Express のアイコン (続き)

アイコン	用途
 Find	ユーザ、ボイスメールボックス、またはグループを検索する場合にクリックします。検索する名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。このアイコンを使用する場合は、後述の手順を参照してください。
 Help	ウィンドウのフィールドに関する情報を示すヘルプウィンドウを開く場合にクリックします。
 Import	Cisco CallManager から Cisco Unity Express へユーザをインポートする場合にクリックします。
 Refresh All	すべてのメッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) を更新する場合にクリックします。
 Refresh Selected	選択したメッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) を更新する場合にクリックします。
 Reset	内線番号の値をリセットする場合にクリックします。
 Reset All	すべての内線番号の値をリセットする場合にクリックします。
 Save	アクティブなウィンドウまたはセッションで加えられた変更を保存する場合にクリックします。
 Unlock	1 つまたは複数のメールボックスのロックを解除する場合にクリックします。
 Upload	個人用にカスタマイズされ、事前に録音された自動受付グリーティングファイルまたはスクリプトをアップロードする場合にクリックします。
 Verify	Cisco Unity Express と Cisco CallManager の間の接続を確認する場合にクリックします。

データの検索 : Find アイコン

Find アイコン以外のアイコンはすべて、1つか2つの手順で操作を完了できます。Find アイコンの場合は、希望のデータを検出する検索パターンを尋ねるダイアログボックスが表示されます。次の例を参考にしてください。

この3つのフィールドのいずれかにパターンを入力できます。たとえば、ユーザのID、ユーザの名前、またはユーザの内線番号を入力できます。Search ボタンをクリックすると、入力したデータと一致するユーザが検索されます。

完全な名前、ID、または内線番号がわからない場合は、わからない文字の代わりにアスタリスク (*) を使用できます。たとえば、sm* というユーザ ID を入力すると、sm で始まる ID を持つ全ユーザのリストが返されます。同様に、*3 という内線番号を入力すると、3 で終わる内線番号を持つ全ユーザの名前が表示されます。

ユーザのリストが表示されたら、名前の隣にあるチェックボックスをオンにすることによってエントリを選択できます。ソフトウェアは、Find アイコンを使用したデータ入力ウィンドウでこの選択を使用します。

データをアルファベット順に配列 : Sort アイコン

一連のユーザ、内線番号、電話機を示すウィンドウは、昇順または降順に並べ替えることができます。カラム タイトルの隣にある三角形は、最後に並べ替えられたカラムと、データの並べ替えの方向を示しています。どのカラムも並べ替えることができます。次の例を参考にしてください。

Configure > Users

Add Delete Find Help

1 - 10 of 41 result(s)

<input type="checkbox"/>	△ User ID	Display Name	Primary Extension
<input type="checkbox"/>	gayle	gayle	
<input type="checkbox"/>	user1	user	5001
<input type="checkbox"/>	user2	user	5012
<input type="checkbox"/>	user3	user	5013
<input type="checkbox"/>	user4	user	5014
<input type="checkbox"/>	user5	user	5015
<input type="checkbox"/>	user6	user	5016
<input type="checkbox"/>	user10	user	5018
<input type="checkbox"/>	user19	user	5019
<input type="checkbox"/>	user20	user	5020

1 2 3 4 5 Rows per page: 10

Configure > Users

Add Delete Find Help

1 - 10 of 41 result(s)

<input type="checkbox"/>	▽ User ID	Display Name	Primary Extension
<input type="checkbox"/>	user8	user	
<input type="checkbox"/>	user7	user	5007
<input type="checkbox"/>	user6	user	5006
<input type="checkbox"/>	user5	user	5005
<input type="checkbox"/>	user40	user	5040
<input type="checkbox"/>	user47	user	5047
<input type="checkbox"/>	user46	user	5046
<input type="checkbox"/>	user45	user	5045
<input type="checkbox"/>	user44	user	5044
<input type="checkbox"/>	user41	user	5041

1 2 3 4 5 Rows per page: 10

カラム タイトルをクリックすると、リスト エントリが降順に並べ替えられます。



ワンポイント・アドバイス

降順の並べ替えは、名前のリストが長すぎてウィンドウに収まらない場合にリストの終わりにあるエントリを検索するときなどに便利です。

次の作業

P.63 の「[管理タスクのシーケンス](#)」の章で、管理タスクのリストを参照してください。



管理タスクのシーケンス

管理タスクは、前提条件アクティビティの完了後に開始できます。一度だけ実行するタスク、定期的に行うタスク、必要に応じて実行するタスクがあります。

オンライン ヘルプ

これらの設定タスクすべてについて、オンライン ヘルプで情報と使用方法を参照できます。各ウィンドウで **Help** アイコンを探して、それらのヘルプウィンドウにアクセスしてください。

初期タスク

表 16 に示されているタスクは、Cisco Unity Express を設定するために実行します。

表 16 初期設定タスク

タスク	メニューのオプション
1. カスタマイズしたプロンプトとグリーティングをアップロードします。あるいは、TUI で Administration via Telephone (AVT) システムを使用してプロンプトを録音します。	Voice Mail > Prompts を選択します。
2. カスタマイズしたスクリプトをアップロードします。スクリプトを作成するには、『Cisco Unity Express Script Editor Guide』で説明されているスクリプト エディタを使用します。	Voice Mail > Scripts を選択します。
3. 自動受付アプリケーションを設定します。	Voice Mail > Auto Attendant を選択します。
4. 内線番号が設定されていない場合は、設定します。	Configure > Extensions を選択します。
5. ユーザとグループが設定されていない場合は、設定します。	Configure > Users and Configure > Groups を選択します。
6. 個人用および汎用の送信ボイスメールボックスを設定します。	Voice Mail > Mailboxes を選択します。
7. ネットワークを使用している場合は、ネットワーク ロケーションを設定します。	Administration > Networking Locations を選択します。
8. (オプション) リモート ユーザをローカル ディレクトリに追加します。	Config > Remote Users を選択します。
9. (オプション) パブリック同報リストを作成します。	Voice Mail > Distribution Lists を選択します。
10. (オプション) LRU キャッシュを設定します。	CLI コマンドから使用できます。
11. (オプション) vCard 情報受信確認を設定します。	CLI コマンドから使用できます。
12. (オプション) ブロードキャスト メッセージ送信者を設定します。	Configure > Users を選択します。
13. (オプション) 休日のスケジュールを設定します。	Voice Mail > Holiday Settings を選択します。
14. (オプション) 営業時間を設定します。	Voice Mail > Business Hours Settings を選択します。

定期的なタスク

表 17 にリストされているタスクは定期的に行います。

表 17 定期的な管理タスク

タスク	メニューのオプション
システム データをバックアップおよび復元します。	Administration > Backup/Restore を選択します。
システムのステータスを監視します。	Reports を選択します。すべてのレポートを定期的に確認します。

必要時のタスク

表 18 にリストされているタスクは必要に応じて行います。

表 18 必要時の管理タスク

タスク	メニューのオプション
ボイスメールボックスを追加、表示、変更、削除します。	Voice Mail > Mailboxes を選択します。
ボイスメールボックスをアンロックします。	Voice Mail > Mailboxes を選択し、Unlock アイコンを選択します。
ユーザを追加、表示、変更、削除します。	Configure > Users を選択します。
グループを追加、表示、変更、削除します。	Configure > Groups を選択します。
ユーザのボイスメール パスワードを変更します。	Configure > Users を選択し、変更する必要があるユーザ ID を選択します。
ボイスメールボックスのサイズまたは格納時間を変更します。	システム全体の値を変更する場合は、Defaults > Mailbox を選択します。特定のユーザの値を変更する場合は、Configure > Users を選択し、ユーザ ID を選択します。
パスワードまたは PIN の長さを変更します。	Defaults > User を選択します。
パスワードまたは PIN の有効期限を変更します。	Defaults > User を選択します。
内線番号と電話番号を追加、表示、変更、削除します。	Configure > Extensions および Configure > Phones を選択します。
内線番号を別のユーザに割り当てます。	Configure > Extensions を選択します。
自動受付アプリケーションのプロパティを変更します。	Voice Mail > Auto Attendant を選択します。
自動受付プロンプトを追加、変更、削除します。	Voice Mail > Prompts を選択します。P.14 の「自動受付グリーティングまたはプロンプトファイルの録音」を参照してください。
自動受付スクリプトを追加、変更、削除します。	Voice Mail > Scripts を選択します。P.14 の「自動受付スクリプトの設定」を参照してください。
ソフトウェアの問題をトラブルシューティングします。	P.67 の「Cisco Unity Express のトラブルシューティング」の章を参照してください。



Cisco Unity Express のトラブルシューティング

この章では、次のトラブルシューティングの手順を説明します。

- [IP アドレッシングの問題 \(P.68\)](#)
- [バックアップまたは復元が機能しない \(P.68\)](#)
- [インストールが正しく機能しない \(P.68\)](#)
- [日付と時刻が正しくない \(P.68\)](#)
- [MWI ライトが正しく機能しない \(P.68\)](#)
- [設定が消える \(P.69\)](#)
- [間違った GUI レイアウト \(P.69\)](#)
- [自動受付プロンプト \(P.69\)](#)

IP アドレッシングの問題

問題：Cisco Unity Express モジュールを ping できない。

説明 ホスト サーバの IP アドレスが欠けているか、または間違っています。

推奨措置 **Administration > Domain Name Settings** を選択して、ホスト サーバを設定します。

説明 間違ったモジュールまたはゲートウェイが設定されています。

バックアップまたは復元が機能しない

問題：バックアップまたは復元ファイルが正しくロードされない。

推奨措置 正しい FTP サーバが設定されていることを確認します。 **Administration > Backup/Restore > Configuration** を選択します。

推奨措置 正しい DNS サーバが設定されていることを確認します。 **Administration > Domain Name Settings** を選択します。

インストールが正しく機能しない

問題：インストールで正しくロードされない。

推奨措置 正しい FTP サーバが設定されていることを確認します。 **Administration > Backup/Restore > Configuration** を選択します。

推奨措置 正しい DNS サーバが設定されていることを確認します。 **Administration > Domain Name Settings** を選択します。

日付と時刻が正しくない

問題：システムの日付と時刻が正しくない。

推奨措置 正しい NTP サーバが設定されていることを確認します。 **Administration > Network Time & Time Zone Settings** を選択します。

推奨措置 正しいタイムゾーンが設定されていることを確認します。 **Administration > Network Time & Time Zone Settings** を選択します。

MWI ライトが正しく機能しない

問題：ユーザのメールボックスにメッセージが保存されているときに MWI ライトが点灯しません。

推奨措置 ユーザの MWI ライトを更新します。 **Voice Mail > Message Waiting Indicators > Refresh** を選択します。

推奨措置 ユーザの内線番号がプライマリ内線番号として指定されていることを確認します。Cisco Unity Express は MWI を E.164 番号に送信しません。 **Configure > Users** を選択して、プライマリ内線番号を指定します。

設定が消える

問題: ボイスメールパラメータまたは自動受付パラメータを設定したが、現在の Cisco Unity Express コンフィギュレーションにそれらが表示されない。

説明 GUI で **Apply** アイコンをクリックして変更を保存しませんでした。

説明 CLI コマンドを使用して Cisco CallManager サーバまたは Cisco CME ルータに変更を加えましたが、Cisco Unity Express がそれらを取得しませんでした。

推奨措置 (Cisco CME の場合のみ) **Administration > Synchronize Information** を選択して、Cisco CallManager と Cisco Unity Express データベースを同期化します。

説明 スタートアップ コンフィギュレーションに変更を加えましたが、それが実行コンフィギュレーションに保存されませんでした。

推奨措置 **Administration > Save Configuration** を選択して、スタートアップ コンフィギュレーションをロードします。

間違った GUI レイアウト

問題: GUI にログインすると、完全な管理ウィンドウではなく、限られたオプションが表示される。

説明 別の管理者がログインしています。管理 GUI にアクセスできる管理者は一度に 1 人だけです。

推奨措置 誰がログインしているかを確認して、その管理者をログアウトするか、非アクティビティ タイマーによってその管理者がログアウトされるまで数分間待ちます。

自動受付プロンプト

問題: カスタム自動受付プロンプトが機能しない。

推奨措置 プロンプトの形式が CCITT G.711 u-law, 8kHz, 8-bit, Mono であることを確認します。

■ 自動受付プロンプト



付録 A：ソフトウェアの著作権とライセンス

次のソフトウェア パッケージは、一般公衆利用許諾契約書バージョン 2 の条件に従って配布されます。

bash

devfsd

e2fsprogs

fileutils

findutils

gawk

grep

hrtimers

kernel2.4.18

mingetty

modutils

ncurses

net-tools

procps

sh-utils

sysklogd

syslog-ng

sysvinit

tar

textutils

utils-linux

GNU ソフトウェア

著作権表示 :

GNU 一般公衆利用許諾契約書

バージョン 2、1991 年 6 月

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

この利用許諾契約書をコピー、および逐語的に複写して配布することは許可されますが、変更は認められません。

はじめに

ソフトウェアライセンスのほとんどは、そのソフトウェアを共有および変更できないように設計されています。対照的に、GNU 一般公衆利用許諾契約書は、フリーソフトウェアを自由に共有および変更できることを保証しています。つまり、ソフトウェアをすべてのユーザに公開することを目的としています。この一般公衆利用許諾契約書はフリーソフトウェア財団のソフトウェアのほとんどに適用されており、作者がこの利用許諾契約書の利用を決定したプログラムにも適用されます（フリーソフトウェア財団のソフトウェアの中には、GNU ライブラリー一般公衆利用許諾契約書によって保護されるものもあります）。ご自分のプログラムに GNU 一般公衆利用許諾契約書を適用することもできます。

フリーソフトウェア財団がフリーソフトウェアに言及する際は、価格ではなく使用の自由のことを指しています。各種一般公衆利用許諾契約書は、フリーソフトウェアのコピーを配布する（および希望に応じてその種のサービスの対価を要求する）自由があること、ソースコードを受け取る、または必要に応じて入手できること、ソフトウェアを変更する、またはその一部を新たなフリープログラムに使用できること、および以上の権利について知ることを保証するものです。

利用者の権利を守るためには、他者がこれらの権利を否定したり、これらの権利を放棄するよう要求したりしないように、制限を設ける必要があります。これらの制限により、利用者がソフトウェアのコピーを配布または改変する場合、利用者に一定の責任が生じます。

たとえば、フリープログラムのコピーを配布する場合、有償無償にかかわらず、利用者は自分が持っている権利をすべて受領者に与えなければなりません。また、受領者がソースコードを受け取ったり、入手したりできるように保証する必要があります。そして、受領者に次の条件を示し、受領者自身の権利について知らせる必要があります。

フリーソフトウェア財団では、利用者の権利を次の 2 段階で保護します。(1) ソフトウェアを著作権で保護します。(2) 利用者にこの利用許諾契約書を提示し、ソフトウェアをコピー、配布、または改変する（あるいはそのすべての）法的な許可を与えます。

また、それぞれの作者およびフリーソフトウェア財団を保護するために、このフリーソフトウェアには一切の保証がないことをご理解いただきたいと思います。ソフトウェアが他者によって改変され、それが次々に配布された場合、受領者は入手したソフトウェアがオリジナルではなく、他者の改変によって起こった問題は原著者の名声とは関係ないことをご承知ください。

最後に、すべてのフリープログラムは、常にソフトウェア特許に脅かされています。フリーソフトウェア財団では、フリープログラムの再配布者が個人的に特許ライセンスを取得して、実質的にそのプログラムの著作権を所有する危険を避けたいと思います。この事態を回避するため、いかなる特許も、すべての人が自由に使用することを許可するか、またはまったく使用を許可しないかのいずれかでなければならぬことを明確にしました。

以下に、コピー、配布、および改変についての正確な条件と制約を示します。

GNU 一般公衆利用許諾契約書

コピー、配布、および改変に関する条件と制約

0. この利用許諾契約は、この一般公衆利用契約書の定める条件に従って配布できる旨の通知が著作権者によって記載されたすべてのプログラムまたは他の著作物に適用されます。以下で「プログラム」と表記した場合は、そのようなプログラムまたは著作物を指します。また、「プログラムを基にした著作物」とは、プログラムまたは著作権法が規定する派生物全般を意味します。つまり、プログラムまたはその一部をまったく同一のまま、または改変を加えて、あるいは他の言語に翻訳した形で含む著作物を意味します（以下では、翻訳も例外ではなく「改変」の一種とします）。各契約者を「あなた」と呼びます。

コピー、配布、および改変以外の行為は、本契約書の範疇ではないため、本契約書では保護されません。プログラムを実行するという行為に制限はありません。また、このようなプログラムの出力結果は、その内容がプログラムを基にした著作物の構成要素となる場合のみ、本契約書によって保護されます（プログラムの実行によって行われたことは無関係です）。これが当てはまるかどうかは、プログラムの機能に依存します。

1. あなたは、適切な著作権表示および保証の免責条項をそれぞれのコピーに目立つように適切に記載し、本契約書および保証の不在に言及した通知をすべて残し、本契約書のコピーをプログラムとともに他のプログラム受領者に配布する限り、プログラムのソース コードのコピーを受領したとおりの形で、あらゆる媒体でコピーおよび配布することができます。

あなたは、コピーを譲渡するという物理的行為に対して対価を要求し、対価と引き換えに任意で保証の保護を提供することができます。

2. あなたは、プログラムのコピーまたはその一部を改変してプログラムを基にした著作物を作成し、それらの改変物または著作物を上記第 1 条の条件の下にコピーまたは配布することができます。ただし、そのためには次の条件をすべて満たしている必要があります。

- a) 改変したファイルに、ファイルを改変したこと、および改変した日付を明示しなければならない。
- b) プログラムまたはその一部を完全または部分的に含む、あるいはそこから派生した、配布または出版する著作物全体を本契約書の条件に従って使用することを、いかなる第三者に対しても無償で許可しなければならない。
- c) 改変されたプログラムが通常、実行時にインタラクティブにコマンドを読み取る場合は、そのようなインタラクティブな使用のためにプログラムが最も一般的な方法で起動された際、適切な著作権表示、一切の保証がない旨（あるいは、あなたが保証を提供しない旨）およびユーザがそれらの条件の下でプログラムを再配布できる旨の通知、本ライセンスのコピーの表示方法に関する通知などの表示が印刷または表示されるようにしなければならない。（ただし、例外として、プログラム自体がインタラクティブであっても通常はそのような通知を印刷しない場合は、プログラムに基づく著作物は通知を印刷する必要はありません）。

これらの要件は、改変された著作物全体に適用されます。著作物の一部がプログラムの派生物ではないと確認でき、それ自体独立した別個の著作物であると合理的に判断できる場合は、あなたがそれらを別個の著作物として配布する限り、それらの部分に本契約書および本条件は適用されません。ただし、同じ部分をプログラムを基にした著作物全体の一部として配布する場合、著作物全体の配布については本契約書の条件に従わなければなりません。本契約書が他の契約者に与える許可は、プログラム全体および個々の部分すべてに及び、誰が作成したかは関係ありません。

この条項の目的は、あなたが作成した著作物に対して権利を主張したり、あなたの権利に異議を唱えることなく、プログラムを基にした派生物または集合著作物の配布を管理する権利を行使することです。

また、ライブラリを基にしていない他の著作物とプログラム（またはプログラムを基にした著作物）を単に寄せ集めて 1 つの記憶装置または配布媒体に収めても、他の著作物は本契約書の保護の対象にはなりません。

3. あなたは、上記第 1 条および第 2 条の条件に従ってプログラム（あるいは第 2 条におけるそれに基づく著作物）をオブジェクト コードまたは実行形式でコピーおよび配布することができます。ただし、次のいずれかを行うことを条件とします。

- a) それらの形式に完全に対応した機械で解読可能なソース コードを添付し、上記第 1 条および第 2 条の条件に従い、ソフトウェアの交換で習慣的に使用される媒体で配布する。
- b) 少なくとも 3 年間は有効な書面による申し出を添付して、物理的な配布に要するコストを上回らない対価と引き換えに、機械で解読可能な、対応ソース コードのコピーを任意の第三者に提供し、上記第 1 条および第 2 条の条件に従い、ソフトウェアの交換で習慣的に使用される媒体で配布する旨を明記する。
- c) 対応するソース コードを配布する申し出について受け取った情報を添付する（この代替案が認められるのは、非商業的な配布の場合、およびそのような申し出とともに上記 b 項に従ってオブジェクト コードまたは実行形式でプログラムを受け取った場合だけです）。

著作物の「ソース コード」とは、改変を加えるのに適した著作物の形式を意味します。実行ファイルの場合、完全なソース コードとは、実行ファイルに含まれるすべてのモジュールのソース コードに加え、関連するすべてのインターフェイス定義ファイル、および実行ファイルのコンパイルとインストールの制御に使用するスクリプトを意味します。ただし、特別な例外として、コンポーネント自体に実行ファイルが付属しない場合、実行ファイルが実行されるオペレーティング システムの主要なコンポーネント（コンパイラやカーネルなど）とともに（ソースまたはバイナリ形式のいずれかで）通常配布されるものを、配布するソース コードの中にも含める必要はありません。

実行ファイルまたはオブジェクト コードの配布が、指定された場所からコピーするための手段を提供することによって行われる場合、ソース コードを同じ場所からコピーするための同等の手段が提供されていれば、オブジェクト コードと一緒にソース コードが強制的にコピーされなくても、ソース コードの配布とみなします。

4. 本契約書に明示的に記述されている方法以外で、プログラムをコピー、改変、サブライセンス、または配布することはできません。他の方法でプログラムのコピー、改変、サブライセンス、または配布しようとするいかなる試みも無効であり、そのような試みを実行した場合、本契約書における権利を自動的に失います。ただし、本契約書の下でコピーまたは権利を受領した第三者に関しては、本契約書に完全に従う限り、ライセンスが失効することはありません。

5. あなたは本契約書に署名していないため、本契約書を受諾する必要はありません。ただし、プログラムまたはその派生著作物の改変または配布を許可するものは他にありません。本契約書を受諾しない場合、そのような行為は法律によって禁止されます。このため、プログラム（またはプログラムを基にした任意の著作物）を改変または配布することによって、その行為を行うために本契約書を受諾したこと、およびプログラムまたはプログラムを基にした著作物のコピー、配布、または改変に関するすべての条件と制約を受諾したことを示すものとします。

6. あなたがプログラム（またはプログラムを基にした任意の著作物）を再配布するたびに、受領者は、最初のライセンスから本契約書に定める条件に従ってプログラムをコピー、配布、または改変するライセンスを自動的に受領するものとします。受領者がここで認められた権利を行使する場合に、これ以上のいかなる制限も加えることはできません。あなたには、第三者に本契約書の順守を強制する責任はありません。

7. 裁判所の判決または特許侵害の申し立ての結果として、あるいはその他の理由（特許問題に限らない）から、本契約書と矛盾する条件が（裁判所の命令、契約などによって）課された場合、それらの制約は本契約書の条件を免除するものではありません。本契約書における義務とその他の関連する義務を同時に満たす形で配布できない場合は、結果としてプログラムを配布することはできません。たとえば、ある特許ライセンスで、あなたから直接または間接的にコピーを受け取った受領者がプログラムを無償で再配布することを許可されていない場合、その特許ライセンスと本契約書の両方の条件を満たすには、プログラムの配布を完全に中止するしかありません。この条項の一部が特定の状況の下で無効または実行不可能な場合にも、この条項の残りの部分は適用されることを前提としており、その他の状況ではこの条項すべてが適用されることを前提としています。

特許権やその他の所有権を侵害したり、そのような権利の主張の有効性に対して異議を助長することがこの条項の目的ではありません。この条項の唯一の目的は、公衆利用許諾の慣行によって行われているフリーソフトウェア配布システムの統合性を守ることです。多くの人がこのシステムの首尾一貫した適用を信頼して、このシステムを通じて配布されるさまざまなソフトウェアに惜しみない貢献を果たしてきました。他のシステムを通じてソフトウェアを配布するかどうかを決めるのは作者または寄与者であり、契約者はその選択を強要できません。

この条項は、本契約書のこの条項以外の部分の帰結と考えられるケースを全面的に明らかにすることを目的としています。

8. 特定の国々において、プログラムの配布や使用が特許または著作権のあるインターフェイスによって制限されている場合、プログラムに本契約書を適用した最初の著作権者は、それらの国々を除外した明示的な地理的配布制限を加え、除外されていない国々の国内やそれらの国々の間でのみ配布が許可されるようにすることができます。そのような場合には、その制限を本契約書の本文に記載されているものとして、本契約書に加えます。

9. フリーソフトウェア財団では、その時々、改訂バージョンまたは新バージョンの一般公衆利用許諾契約書を発行することができます。そのような新バージョンの方針は現在のバージョンと同様ですが、新たな問題や懸案に対応するために細部では異なる場合があります。

それぞれのバージョンには、識別のためのバージョン番号が振られています。プログラムに、そのプログラムで適用される本契約書のバージョン番号が指定され、さらに「以降の任意のバージョン」という記載がある場合、指定されたバージョン、またはフリーソフトウェア財団によって発行された以降のバージョンのどの条件と制約に従うか選択することができます。プログラムに本契約書のバージョン番号が指定されていない場合、これまでにフリーソフトウェア財団によって発行された任意のバージョンを選択することができます。

10. 配布条件が本契約書と異なる他のフリープログラムにプログラムの一部を組み込む場合は、作者に書面にて許可を求めてください。フリーソフトウェア財団が著作権を保有するソフトウェアに関しては、フリーソフトウェア財団に書面にてご連絡ください。このような場合には例外を認めることがあります。フリーソフトウェア財団では、当財団のフリーソフトウェアの派生物すべてを自由な状態に保つこと、およびソフトウェアの共有と再使用を広く促進すること、という2つの目標を指針として判断します。

無保証について

11. プログラムは無償で使用が許可されるので、適用される法律の範囲において、プログラムに関するいかなる保証も存在しません。書面で別段に定める場合を除き、著作権者またはその他の関係者（あるいはその両方）は、プログラムを「現状のまま」提供するものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、何の保証もしません。プログラムの品質と性能に関するリスクは、すべてあなたに帰属します。万が一プログラムに欠陥があることが判明した場合、あなたは必要なすべての保守点検、修復、または修正に要する費用を負担するものとします。

12. 上記で許可されているとおりにプログラムを改変または再配布（あるいはその両方）できる著作権者またはその他の関係者は、プログラムの使用またはプログラムを使用できないことによって生じる一般的、特別、偶発的、必然的な損害を含むあらゆる損害（データの消失、データの不正確な処理、あなたまたは第三者が受けた損失、プログラムが他のソフトウェアで動作しない、などを含むがこれに限定されるものではない）が起こる可能性について知らされていたとしても、そのような損害に関して、適用される法律によって命じられるか、書面での合意を得ない限り、い

かなる場合もあなたに対して責任を負いません。

条件と制約終わり

新しいプログラムへの条件の適用

新しいプログラムを開発し、それが可能な限り広く使用されるようになることを望む場合、最善の方法は、そのプログラムをフリーソフトウェアにして、上記の条件の下で誰でも再配布および変更ができるようにすることです。

そのためには、次の通知をプログラムに添付します。最も効果的に保証の除外を伝えるには、各ソースファイルの先頭に表示を加えるのが最も確実な方法です。そして、少なくとも「著作権」の方針と、表示全文を確認できる場所に関する指示が各ファイルに記載されている必要があります。

<プログラムの名前およびその機能の簡潔な説明を示す 1 行。> Copyright (C) <年> <作者名>

本プログラムはフリーソフトウェアです。本ライブラリは、フリーソフトウェア財団によって発行された GNU 一般公衆利用許諾契約書 (バージョン 2 またはそれ以降のバージョン) の条項の下で再配布および変更できます。

本プログラムは、お役に立てていただくために配布していますが、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、何の保証もしません。詳細については、GNU 一般公衆利用許諾契約書をご覧ください。

このプログラムには GNU 一般公衆利用許諾契約書のコピーが添付されています。添付されていない場合は、フリーソフトウェア財団 (59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA) に書面でご連絡ください。

さらに、電子メールや書面によってあなたに連絡する方法も記載します。プログラムがインタラクティブである場合は、インタラクティブモードで起動された時に次のような通知を出力させます。

Gnomovision version 69, Copyright (C) 年 作者である Gnomovision の名前とともに一切の保証がない旨を記載します。詳細については、「show w」と入力してください。これはフリーソフトウェアであり、一定の条件の下で自由に再配布することができます。詳細については、「show c」と入力してください。

「show w」および「show c」は仮定のコマンドであり、一般公衆利用許諾契約書の適切な部分を示す必要があります。当然、使用するコマンドは「show w」や「show c」以外のもので呼ばれることもあります。プログラムによっては、マウスクリックやメニュー形式でもかまいません。また、必要に応じて、あなたが在籍する会社 (プログラムとして働いている場合) または学校に、プログラムの「著作権放棄」に署名してもらいます。以下に文例を示します。名前を変更して使用してください。

Yoyodyne, Inc. は、James Hacker が開発したプログラム「Gnomovision」(コンパイラでパスを作成するプログラム)の著作権法上の権利をすべて放棄します。

<Ty Coon の署名>、1 April 1989 Ty Coon, President of Vice

この一般公衆利用許諾契約書では、著作権のあるプログラムにご自分のプログラムを組み込むことは許可されていません。ご自分のプログラムがサブルーチンライブラリである場合は、著作権を持つアプリケーションをライブラリとリンクするほうが有益だと考えるかもしれません。そのようなことを行いたい場合は、本契約書ではなく GNU ライブラリ一般公衆利用許諾契約書を使用してください。

CURL ソフトウェア

Curl ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

著作権および使用許諾

Copyright (c) 1996 - 2002, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>. All rights reserved.

本ソフトウェアの使用、コピー、変更、配布は、その目的や有償無償にかかわらず、上記の著作権表示およびこの使用許諾文をすべてのコピーに記載する場合のみ許可されます。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証、特定の目的に適合するとの保証、第三者の権利を侵害しないことを含めて、いかなる保証もなされません。事由のいかなを問わず、かつ契約内の行為であるか不法行為であるかその他の行為であるかを問わず、作者も著作権者も、本ソフトウェア自体あるいは本ソフトウェアの使用またはその他の扱いから、もしくはそれに関連して発生した請求、損害、またはその他の不利益のいずれに対しても、責任を一切負いません。

この通知に含まれる場合を除き、書面による著作権者の事前の許可なしに、本ソフトウェアの販売、使用、その他の取引を促すことを目的として宣伝またはその他の手段に著作権者の名前を使用してはなりません。

EXPAT ソフトウェア

Expat ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper

本ソフトウェアおよびその関連マニュアル ファイル（以下「ソフトウェア」と呼ぶ）のコピーを入手した方は、ソフトウェアのコピーの使用、改変、合成、出版、配布、サブライセンス、販売の権利を含め、ソフトウェアを制限なく扱うこと、および次の制約に従ってソフトウェアの供給の対象者にそのような行為を許可することを無償で認められます。

ソフトウェアのすべてのコピーまたは重要部分に上記の著作権表示およびこの使用許諾文が含まれるものとします。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証、特定の目的に適合するとの保証、権利を侵害しないことを含めて、いかなる保証もなされません。事由のいかんを問わず、かつ契約内の行為であるか不法行為であるかその他の行為であるかを問わず、作者も著作権者も、本ソフトウェア自体あるいは本ソフトウェアの使用またはその他の扱いから、もしくはそれに関連して発生した請求、損害、またはその他の不利益のいずれに対しても、責任を一切負いません。

ZLIB ソフトウェア

Zlib ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

Copyright notice: (C) 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、いかなる保証もなされません。事由のいかんを問わず、作者は本ソフトウェアの使用から発生する損害に責任を負いません。

誰でも、次の制約に従い、商用を含む任意の目的で本ソフトウェアを使用して、自由に改変および再配布することが認められます。

1. 本ソフトウェアの原型について虚偽の記載をしてはなりません。また、本ソフトウェアを最初に開発したのは自分であると主張してはなりません。本ソフトウェアを製品内で使用する場合は、その製品のマニュアルに通知を記載していただくと幸いです。義務ではありません。
2. 改変したソースバージョンにはその旨を明示する必要があります。オリジナルのソフトウェアであるという虚偽の記載をしてはなりません。
3. この通知をソースの配布から削除したり変更したりすることはできません。

Jean-loup Gailly Mark Adler

jloup@gzip.org madler@alumni.caltech.edu

製品内で zlib ライブラリをご使用になる場合、署名すべき長い法律書類を当方にお送りにならないようお願いいたします。ソースは無償で提供されますが、いかなる保証もなされません。本ライブラリはすべて、Jean-loup Gailly と Mark Adler によって開発されたものであり、サードパーティ製のコードは含まれていません。

APACHE ソフトウェア

次のソフトウェア パッケージは APACHE Software Foundation のライセンスに基づいて配布されます。

xerces

jakarta-oro

jakarta-tomcat

著作権表示：

=====

The Apache Software License, Version 1.1 Copyright (c) 1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

ソース コード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、次の条件にあてはまる場合のみ許可されます。

1. ソース コード形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を記載する必要があります。

2. バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を、配布物とともに提供される文書と、その他の資料があればその資料に含める必要があります。

3. 再配布時にエンドユーザ向けの文書を含める場合、次の通知を記載しなければなりません。「この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています」。または、ソフトウェア本体にこのようなサードパーティの通知を通常記載する場所があれば、そこに記載することもできます。

4. 「The Jakarta Project」、「Tomcat」、および「Apache Software Foundation」の名称は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を保証または宣伝するために使用することはできません。書面による許可については、apache@apache.org にご連絡ください。

5. Apache Group の書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を「Apache」と呼んだり、その名称の一部に「Apache」を使用することはできません。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、いかなる保証もなされません。事由のいかんを問わず、損害発生の原因いかんを問わず、かつ、責任の根拠が契約であるか厳格責任であるか不法行為（過失その他）であるかを問わず、Apache Software Foundation も寄与者も、仮にそのような損害が発生する可能性を報告されていたとしても、本ソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的な損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害のいずれに対しても、（代替品またはサービスの提供、使用機会の喪失に対する補償、データまたは利益の損失に対する補償、業務の中断に対する補償を含め）責任を一切負いません。

=====

本ソフトウェアは、Apache Software Foundation を代表する多数の個人による自発的な貢献から成り立っています。Apache Software Foundation の詳細については、<<http://www.apache.org/>> をご覧ください。

LDAP ソフトウェア

Ldap ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

Copyright 1998-2003 The OpenLDAP Foundation

All rights reserved.

ソースコード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、OpenLDAP Public License の認可を受けた場合のみ許可されます。契約書のコピーは、<http://www.OpenLDAP.org/license.html> または最上位の配布ディレクトリ内のファイル「LICENSE」から入手できます。

OpenLDAP は OpenLDAP Foundation の登録商標です。

個々のファイルや寄与されたパッケージは、他の当事者により著作権で保護されている可能性があり、追加的な制約を受けることがあります。

この著作物は、University of Michigan の LDAP v3.3 の配布から派生しています。本ソフトウェアに関する情報は <http://www.umich.edu/~dirsvcs/ldap/> でご確認くださいことができます。

この著作物には、公開ソースから得られる資料も含まれます。OpenLDAP に関する詳細については、<http://www.openldap.org/> でご確認くださいことができます。

Portions Copyright (c) 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

All rights reserved.

ソースコード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、この通知が記載され、Ann Arbor にある University of Michigan の名前が明記されている場合のみ許可されます。同大学の名前は、書面による事前の明確な許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を保証または宣伝するために使用することはできません。本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、いかなる保証もなされません。

GLIBC ソフトウェア

Glibc ソフトウェアは、劣等一般公衆利用許諾契約書バージョン 2.1 の著作権表示の条件の下で配布されます。

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書

バージョン 2.1、1999 年 2 月

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

この利用許諾契約書をコピー、および一字一句そのまま書き写し配布することは許可されますが、変更は認められません。

[これは、劣等 GPL としては最初の公開版です。劣等 GPL は、GNU ライブラリ公衆利用許諾契約書、バージョン 2 の後継とみなされるので、バージョン番号は 2.1 となっています]

はじめに

ソフトウェアライセンスの大半は、そのソフトウェアを共有および変更できないように設計されています。

対照的に、GNU 一般公衆利用許諾契約書は、フリーソフトウェアを自由に共有および変更できることを保証しています。つまり、ソフトウェアをすべてのユーザに公開することを目的としています。

劣等一般公衆利用許諾契約書は、フリーソフトウェア財団およびこの利用許諾契約書の利用を決定したその他の作者の特定のソフトウェアパッケージ（通常はライブラリ）に適用されます。この利用許諾契約書を使用することもできますが、この利用許諾契約書または通常の一般公衆利用許諾契約書のどちらを使用する方が戦略上より優れているか、次の説明に基づいてまず十分考察することを推奨します。

フリーソフトウェア財団がフリーソフトウェアに言及する際は、価格ではなく使用の自由のことを指しています。各種一般公衆利用許諾契約書は、フリーソフトウェアのコピーを配布する（および希望に応じてその種のサービスの対価を要求する）自由があること、ソースコードを受け取る、または必要に応じて入手できること、ソフトウェアを変更し、その一部を新たなフリープログラムに使用できること、および以上の権利について知ることを保証するものです。

利用者の権利を守るためには、代理店がこれらの権利を否定したり、これらの権利を放棄するよう要求したりしないように、制限を設ける必要があります。これらの制限により、利用者がライブラリのコピーを配布または改変する場合、利用者に一定の責任が生じます。

たとえば、ライブラリのコピーを配布する場合、有償無償にかかわらず、利用者は自分が与えられた権利をすべて受領者に与えなければなりません。また、受領者がソースコードを受け取ったり、入手したりできるように保証する必要があります。ライブラリと他のコードをリンクする場合は、受領者がライブラリの変更および再コンパイル後にライブラリとそれらのコードを再リンクできるように、完全なオブジェクトファイルを提供しなければなりません。そして、受領者に次の条件を示し、受領者自身の権利について知らせる必要があります。

フリーソフトウェア財団では、利用者の権利を次の 2 段階で保護します。(1) ライブラリを著作権で保護します。(2) 利用者にこの利用許諾契約書を提示し、ライブラリをコピー、配布、または改変する（あるいはそのすべての）法的な許可を与えます。

また、各配布者を保護するために、このフリーライブラリには一切の保証がないことをご理解いただきたいと思えます。ソフトウェアが他者によって改変され、それが次々に配布された場合、受領者は入手したソフトウェアがオリジナルではなく、他者の改変によって起こった問題は原著者の名声とは関係ないことをご承知ください。

最後に、すべてのフリープログラムは、常にソフトウェア特許に脅かされています。フリーソフトウェア財団では、企業が特許権保有者から限定的なライセンスを取得したために、フリープログラムのユーザが事実上の制限を受けることがないよう確認したいと思えます。したがって、どのバージョンのライブラリ用に取得した特許ライセンスも、この利用許諾契約書に明記されているとおり、完全な使用の自由を認めていなければならないことを主張します。

いくつかのライブラリを含め、GNU ソフトウェアのほとんどは、通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書によって保護されています。GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書は、特定のライブラリに適用されるものであり、通常の一般公衆利用許諾契約書とは大きく異なります。フリーソフトウェア財団では、特定のライブラリとフリーでないプログラムとのリンクを許可するために、特定のライブラリに対してこの利用許諾契約書を適用します。

ライブラリをプログラムとリンクする場合、静的にリンクするか共有ライブラリとして使用するかにかわらず、両者を結合したものは、法的に結合著作物、つまり元のライブラリの派生物となります。通常の一般公衆利用許諾契約書では、規定された自由の基準に結合物全体が適合する場合にのみ、このようなリンクを許可しています。劣等一般公衆利用許諾契約書では、ライブラリを他のコードとリンクする場合に、より緩やかな基準を設けています。

この利用許諾契約書を「劣等」一般公衆利用許諾契約書と呼ぶのは、ユーザの自由を保護するという点で、通常の一般公衆利用許諾契約書よりも「劣る」ためです。また、この利用許諾契約書は、フリーでないプログラムと競争する場合に、他のフリーソフトウェア開発者にとってわずかな優位にしかありません。こうした不利な点があるために、多くのライブラリには通常の一般公衆利用許諾契約書が適用されます。しかし、特定の状況下では、劣等利用許諾契約書を適用した方が有利な場合もあります。

たとえば、まれなケースですが、あるライブラリをデファクトスタンダードにするために、そのライブラリが可能な限り広範に使用されるよう促進する特殊な必要が生じる場合があります。このような必要を満たすには、フリーでないプログラムにライブラリの使用を許可しなければなりません。よくある事例として、フリーライブラリが、広く使用されているフリーでないライブラリと同じ機能を持っている場合が挙げられます。このような場合、フリーライブラリをフリーソフトウェアでの使用のみに限定しても得られる利益はほとんどないため、劣等一般公衆利用許諾契約書を適用します。

また、フリーでないプログラムで特定のライブラリの使用を許可することによって、より多くの人がかなりのフリーソフトウェアを使用できるようになる場合があります。たとえば、フリーでないプログラムでの GNU C ライブラリの使用を許可することによって、より多くの人々が GNU オペレーティングシステム全体およびその変形である GNU/Linux オペレーティングシステムを使用できます。

劣等一般公衆利用許諾契約書は、ユーザの自由を保護するという点では劣りますが、ライブラリとリンクされているプログラムのユーザが、改変されたバージョンのライブラリを使用してそのプログラムを実行する自由および必要な手段を保証します。

コピー、配布、および改変についての正確な条件と制約を、次に示します。「ライブラリを基にした著作物」と「ライブラリを使用する著作物」の違いに十分注意してください。前者はライブラリのコードを含んでいますが、後者はライブラリと結合して実行する必要があります。

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書

コピー、配布、および改変に関する条件と制約

0. この利用許諾契約は、この劣等一般公衆利用契約書（以下「本契約書」）の定める条件に従って配布できる旨の通知が、著作権者または他の正当な権利を保有する団体によって記載されたすべてのソフトウェアライブラリまたは他のプログラムに適用されます。各契約者を「あなた」と呼びます。

「ライブラリ」とは、ソフトウェア関数やデータの集まりを意味し、（ライブラリに含まれる関数やデータの一部を使用する）アプリケーションプログラムと適切にリンクして実行ファイルを形成するように作成されたものです。

以下で「ライブラリ」と表記した場合は、本契約書の条件に従って配布されたソフトウェアライブラリまたは著作物全般を意味します。「ライブラリを基にした著作物」とは、ライブラリまたは著作権法が規定する派生物全般を意味します。つまり、ライブラリまたはその一部をまったく同一のまま、または改変を加えて、あるいは他の言語に直接翻訳した形で含む著作物を意味します（以下では、翻訳も例外ではなく「改変」の一種とします）。

著作物の「ソースコード」とは、改変を加えるのに適した著作物の形式を意味します。ライブラリの場合、完全なソースコードとは、ライブラリに含まれるすべてのモジュールのソースコードに加え、関連するすべてのインターフェイス定義ファイル、およびライブラリのコンパイルとインストールの制御に使用するスクリプトを意味します。

コピー、配布、および改変以外の行為は、本契約書の範疇ではないため、本契約書では保護されません。ライブラリを使用してプログラムを実行するという行為に制限はありません。また、このようなプログラムの出力結果は、その内容がライブラリを基にした著作物の構成要素となる場合のみ、本契約書によって保護されます（プログラムを記述するためのツールでのライブラリの使用は無関係です）。これが当てはまるかどうかは、ライブラリの機能およびライブラリを使用するプログラムの機能に依存します。

1. あなたは、適切な著作権表示および保証の免責条項をそれぞれのコピーに目立つように適切に記載し、本契約書および保証の不在に言及した通知をすべて残し、本契約書のコピーをライブラリとともに配布する限り、ライブラリの完全なソースコードのコピーを受領したとおりの形で、あらゆる媒体でコピーおよび配布することができます。

あなたは、コピーを譲渡するという物理的行為に対して対価を要求し、対価と引き換えに任意で保証の保護を提供することができます。

2. あなたは、ライブラリのコピーまたはその一部を改変してライブラリを基にした著作物を作成し、それらの改変物または著作物を上記第 1 条の条件の下にコピーまたは配布することができます。ただし、そのためには次の条件をすべて満たしている必要があります。

- a) 改変された著作物自体がソフトウェアライブラリでなければならない。
- b) 改変したファイルに、ファイルを改変したこと、および改変した日付を明示しなければならない。

c) いかなる第三者に対しても、著作物全体を本契約書の条件に従って使用することを無償で許可しなければならない。

d) 改変されたライブラリの機能が、その機能を使用するアプリケーション プログラムによって提供される関数またはデータのテーブルを参照する場合（機能が実行されるときに引数として渡される場合を除く）、アプリケーションがそのような関数やテーブルを提供しない場合にも機能が動作し、その機能が果たす目的のどの部分も失われないことを保証するよう、誠実に努力しなければならない。

（たとえば、ライブラリに平方根を計算する関数が含まれる場合、その関数にはアプリケーションから完全に独立した明確な目的があります。このため、2d 項では、この関数が使用するすべてのアプリケーション提供の関数またはテーブルは、任意でなければならないと規定しています。アプリケーションの提供がない場合にも、平方根機能を使用して平方根を計算できなければなりません）。

これらの要件は、改変された著作物全体に適用されます。著作物の一部がライブラリの派生物ではないと確認でき、それ自体独立した別個の著作物であると合理的に判断できる場合は、あなたがそれらを別個の著作物として配布する限り、それらの部分に本契約書および本条件は適用されません。ただし、同じ部分をライブラリを基にした著作物全体の一部として配布する場合、著作物全体の配布については本契約書の条件に従わなければなりません。本契約書が他の契約者に与える許可は、ライブラリ全体および個々の部分すべてに及び、誰が作成したかは関係ありません。

この条項の目的は、あなたが作成した著作物に対して権利を主張したり、あなたの権利に異議を唱えることなく、ライブラリを基にした派生物または集合著作物の配布を管理する権利を行使することです。

また、ライブラリを基にしていない他の著作物とライブラリ（またはライブラリを基にした著作物）を単に寄せ集めて 1 つの記憶装置または配布媒体に収めても、他の著作物は本契約書の保護の対象にはなりません。

3. ライブラリの任意のコピーに対して、本契約書の代わりに通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書の条件を適用することもできます。そのためには、本契約書について言及しているすべての通知を、本契約書ではなく通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書バージョン 2 に変更しなければなりません（通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書のバージョン 2 よりも新しいバージョンが公表されている場合は、必要に応じて新しいバージョンを指定することができます）。これらの通知には、これ以外のいかなる変更も加えてはいけません。

あるコピーにこの変更が加えられた場合、そのコピーに関しては変更を取り消すことができません。そのため、そのコピーからその後作成されたコピーと派生著作物のすべてには、通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書が適用されません。

この方法は、ライブラリのコードの一部をライブラリでないプログラムにコピーする場合に有用です。

4. あなたは、上記第 1 条および第 2 条の条件に従ってライブラリ（あるいは第 2 条におけるその一部、または派生物）をオブジェクト コードまたは実行形式でコピーおよび配布することができます。ただし、それらの形式に完全に対応した機械で解読可能なソース コードを添付し、上記第 1 条および第 2 条の条件に従い、ソフトウェアの交換で慣例的に使用される媒体で配布しなければなりません。

オブジェクト コードの配布が、指定された場所からコピーするための手段を提供することによって行われる場合、ソース コードを同じ場所からコピーするための同等の手段が提供されていれば、オブジェクト コードと一緒にソース コードが強制的にコピーされなくても、ソース コードの配布要件を満たすものとします。

5. ライブラリのどの部分の派生物も含まず、ライブラリにコンパイルまたはリンクすることによってライブラリとともに動作するように設計されたプログラムは、「ライブラリを使用する著作物」と呼ばれます。このような著作物は、単独ではライブラリの派生著作物ではないため、本契約書の対象外になります。

ただし、「ライブラリを使用する著作物」をライブラリにリンクして実行ファイルを作成すると、「ライブラリを使用する著作物」ではなく、ライブラリの派生物となります（ライブラリの一部を含んでいるため）。そのため、この実行ファイルは本契約書によって保護されます。第 6 条では、このような実行ファイルの配布条件を述べています。

「ライブラリを使用する著作物」が、ライブラリの一部であるヘッダー ファイルのコードなどを使用する場合、その著作物のソース コードがライブラリの派生著作物でない場合にも、オブジェクト コードはライブラリの派生著作物になる可能性があります。これが当てはまるかどうかは、著作物がライブラリなしでリンク可能な場合、または著作物自体がライブラリである場合に特に重要です。これを適用する基準は、法律によって厳密には定義されていません。

このようなオブジェクト ファイルにおいて、数値パラメータ、データ構造のレイアウトとアクセス、および小さなマクロとインライン関数（長さが 10 行以下）しか使用されない場合、そのオブジェクト ファイルの使用は、法的に著作派生物であるかどうかにかかわらず、制限されません（こうしたオブジェクト コードの他にライブラリの一部を含む実行ファイルは、第 6 条の条件下に置かれます）。

また、著作物がライブラリの派生物である場合、第 6 条の条件に従ってその著作物のオブジェクトコードを配布することができます。その著作物を含むいかなる実行ファイルも、直接ライブラリ自体とリンクしているかどうかにかかわらず、第 6 条の条件下に置かれます。

6. 上記の各条項の例外として、「ライブラリを使用した著作物」をライブラリと結合またはリンクして、ライブラリの一部を含む著作物を作成し、あなたが選択した条件に従って配布することもできます。ただし、その条件では、ユーザの私用目的による著作物の改変、および改変をデバッグするためのリバース エンジニアリングを許可する必要があります。

その著作物の各コピーには、その著作物にライブラリが使用されていること、およびライブラリとその使用が本契約書によって保護されていることを明示し、本契約書のコピーを提供しなければなりません。著作物の実行中に著作権表示を表示する場合は、本契約書のコピーの参照先を示すだけでなく、ライブラリの著作権表示も含めなければなりません。また、次のいずれかを実施しなければなりません。

- a) 著作物には、すべての改変点（上記第 1 条および第 2 条の条件に従って配布しなければならない）を含み、ライブラリに対応する機械で解読可能なソースコードをすべて添付する。著作物がライブラリとリンクされた実行ファイルである場合は、ユーザがライブラリを改変後に再リンクして、改変されたライブラリを含む改変された実行ファイルを作成できるように、機械で解読可能な「ライブラリを使用する著作物」すべてをオブジェクトコードまたはソースコード（あるいはその両方）として添付する（ライブラリ内の定義ファイルの内容を改変したユーザは、必ずしもアプリケーションを再コンパイルして改変された定義を使用できるとは限らない）。
- b) ライブラリとのリンクには、適切な共有ライブラリ機構を使用する。適切な機構とは、(1) ライブラリの関数を実行ファイルにコピーするのではなく、実行時にユーザのコンピュータシステムにすでに存在しているライブラリのコピーを使用し、(2) ユーザがライブラリの改変版をインストールした場合に、その改変版と著作物が作成されたときの版にインターフェイス上の互換性がある限り、ライブラリの改変版で適切に動作するものである。
- c) 著作物には、少なくとも 3 年間は有効な書面による申し出を添付し、配布に要するコストを上回らない対価と引き換えに、上記 6a 項で指定されているものを著作物の受領ユーザに提供する旨を明記する。
- d) 著作物の配布が、指定された場所からコピーするための手段を提供することによって行われる場合は、上記で指定されているものと同じ場所からコピーするための同等の手段を提供する。
- e) ユーザが上記で指定されているもののコピーをすでに受領したこと、またはユーザにすでに送付したことを確認する。

実行ファイルの場合、「ライブラリを使用する著作物」を配布する際の形式には、実行ファイルの再生成に必要なデータおよびユーティリティ プログラムがすべて含まれていなければなりません。ただし、特別な例外として、コンポーネント自体に実行ファイルが付属しない場合、実行ファイルが実行されるオペレーティング システムの主要なコンポーネント（コンパイラやカーネルなど）とともに（ソースまたはバイナリ形式のいずれかで）通常配布されるものを、配布物の中に含める必要はありません。

この要件は、通常オペレーティングシステムに付属しないその他の専有ライブラリのライセンスの制限と矛盾する場合があります。そのような矛盾が生じた場合、配布する実行ファイルの中で、それらの専有ライブラリとライブラリを一緒に使用できないことを意味します。

7. ライブラリを基にした著作物であるライブラリの機能を、本契約書で保護されていない他のライブラリの機能と一緒に 1 つのライブラリの中で並存させ、そのような結合されたライブラリを配布することができます。ただし、その場合はライブラリを基にした著作物とその他のライブラリの機能を別個に配布することも許可し、次の 2 つのことを行わなければなりません。

- a) 結合されたライブラリに、他のどのライブラリの機能にも結合していない、ライブラリを基にした同じ著作物のコピーを添付する。これは、上記の各条項の条件に従って配布しなければならない。
- b) 結合されたライブラリに、その一部がライブラリを基にした著作物であるという事実の通知、および付随している著作物の結合されていない形式を入手する方法を明示する。

8. 本契約書に明示的に記述されている方法以外で、ライブラリをコピー、改変、サブライセンス、リンク、または配布することはできません。他の方法でライブラリのコピー、改変、サブライセンス、リンク、または配布しようとするいかなる試みも無効であり、そのような試みを実行した場合、本契約書における権利を自動的に失います。ただし、本契約書の下でコピーまたは権利を受領した第三者に関しては、本契約書に完全に従う限り、ライセンスが失効することはありません。

9. あなたは本契約書に署名していないため、本契約書を受諾する必要はありません。ただし、ライブラリまたはその派生著作物の改変または配布を許可するものは他にありません。本契約書を受諾しない場合、そのような行為は法律によって禁止されます。このため、ライブラリ（またはライブラリを基にした任意の著作物）を改変または配布することによって、その行為を行うために本契約書を受諾したこと、およびライブラリまたはライブラリを基にした著作物のコピー、配布、または改変に関するすべての条件と制約を受諾したことを示すものとします。

10. あなたがライブラリ（またはライブラリを基にした任意の著作物）を再配布するたびに、受領者は、最初のライセンスから本契約書に定める条件に従ってライブラリをコピー、配布、リンク、または改変するライセンスを自動的に受領するものとします。受領者がここで認められた権利を行使する場合に、これ以上のいかなる制限も加えることはできません。あなたには、第三者に本契約書の順守を強制する責任はありません。

11. 裁判所の判決または特許侵害の申し立ての結果として、あるいはその他の理由（特許問題に限らない）から、本契約書と矛盾する条件が（裁判所の命令、契約などによって）課された場合、それらの制約は本契約書の条件を免除するものではありません。本契約書における義務とその他の関連する義務を同時に満たす形で配布できない場合は、結果としてライブラリを配布することはできません。たとえば、ある特許ライセンスで、あなたから直接または間接的にコピーを受け取った受領者がライブラリを無償で再配布することを許可されていない場合、その特許ライセンスと本契約書の両方の条件を満たすには、ライブラリの配布を完全に中止するしかありません。

この条項の一部が特定の状況の下で無効または実行不可能な場合にも、この条項の残りの部分は適用されることを前提としており、その他の状況ではこの条項すべてが適用されることを前提としています。

特許権やその他の所有権を侵害したり、そのような権利の主張の有効性に対して異議を助長することがこの条項の目的ではありません。この条項の唯一の目的は、公衆利用許諾の慣行によって行われているフリーソフトウェア配布システムの統合性を守ることです。多くの人がこのシステムの首尾一貫した適用を信頼して、このシステムを通じて配布されるさまざまなソフトウェアに惜しみない貢献を果たしてきました。他のシステムを通じてソフトウェアを配布するかどうかを決めるのは作者または寄与者であり、契約者はその選択を強要できません。

この条項は、本契約書のこの条項以外の部分の帰結と考えられるケースを全面的に明らかにすることを目的としています。

12. 特定の国々において、ライブラリの配布や使用が特許または著作権のあるインターフェイスによって制限されている場合、ライブラリに本契約書を適用した最初の著作権者は、それらの国々を除外した明示的な地理的配布制限を加え、除外されていない国々の国内やそれらの国々の間でのみ配布が許可されるようにすることができます。そのような場合には、その制限を本契約書の本文に記載されているものとして、本契約書に加えます。

13. フリーソフトウェア財団では、その時々、改訂バージョンまたは新バージョンの劣等一般公衆利用許諾契約書を発行することができます。そのような新バージョンの方針は現在のバージョンと同様ですが、新たな問題や懸案に対応するために細部では異なる場合があります。それぞれのバージョンには、識別のためのバージョン番号が振られています。ライブラリに、そのライブラリで適用される本契約書のバージョン番号が指定され、さらに「以降の任意のバージョン」という記載がある場合、指定されたバージョン、またはフリーソフトウェア財団によって発行された以降のバージョンのどの条件と制約に従うか選択することができます。ライブラリに契約書のバージョン番号が指定されていない場合、これまでにフリーソフトウェア財団によって発行された任意のバージョンを選択することができます。

14. 配布条件が本契約書と適合しない他のフリープログラムにライブラリの一部を組み込む場合は、作者に書面にて許可を求めてください。フリーソフトウェア財団が著作権を保有するソフトウェアに関しては、フリーソフトウェア財団に書面にてご連絡ください。このような場合には例外を認めることがあります。フリーソフトウェア財団では、当財団のフリーソフトウェアの派生物すべてを自由な状態に保つこと、およびソフトウェアの共有と再使用を広く促進すること、という2つの目標を指針として判断します。

無保証について

15. ライブラリは無償で使用が許可されるので、適用される法律の範囲において、ライブラリに関するいかなる保証も存在しません。書面で別段に定める場合を除き、著作権者またはその他の関係者（あるいはその両方）は、ライブラリを「現状のまま」提供するものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、何の保証もしません。ライブラリの品質と性能に関するリスクは、すべてあなたに帰属します。万が一ライブラリに欠陥があることが判明した場合、あなたは必要なすべての保守点検、修復、または修正に要する費用を負担するものとします。

16. 上記で許可されているとおりにライブラリを改変または再配布（あるいはその両方）できる著作権者またはその他の関係者は、ライブラリの使用またはプログラムを使用できないことによって生じる一般的、特別、偶発的、必然的な損害を含むあらゆる損害（データの消失、データの不正確な処理、あなたまたは第三者が受けた損失、ライブラリが他のソフトウェアで動作しない、などを含むがこれに限定されるものではない）が起こる可能性について知らされていたとしても、そのような損害に関して、適用される法律によって命じられるか、書面での合意を得ない限り、い

かなる場合もあなたに対して責任を負いません。

条件と制約終わり

新しいライブラリへの条件の適用

新しいプログラムを開発し、それが可能な限り広く使用されるようになることを望む場合は、そのプログラムをフリーソフトウェアにして、誰でも再配布および変更ができるようにすることをお勧めします。そのためには、上記の条件（あるいは、通常の一般公衆利用許諾契約書の条件）の下での再配布を許可する必要があります。

これらの条件を適用するには、次の表示をライブラリに記載します。最も効果的に保証の除外を伝えるには、各ソースファイルの先頭に表示を加えるのが最も確実な方法です。そして、少なくとも「著作権」の方針と、表示全文を確認できる場所に関する指示が各ファイルに記載されている必要があります。

<ライブラリの名前およびその機能の簡潔な説明を示す 1 行。> Copyright (C) <年> <作者名>

本ライブラリはフリーソフトウェアです。本ライブラリは、フリーソフトウェア財団によって発行された GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書（バージョン 2 またはそれ以降のバージョン）の条項の下で再配布および変更できます。

本ライブラリは、お役に立てていただくために配布していますが、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、何の保証もしません。詳細については、GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書をご覧ください。

このライブラリには GNU 一般公衆利用許諾契約書のコピーが添付されています。添付されていない場合は、フリーソフトウェア財団（59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA）に書面でご連絡ください。

連絡先の電子メールアドレスまたはご住所も書き添えてください。

また、必要に応じて、あなたが在籍する会社（プログラマとして働いている場合）または学校に、

プログラムの「著作権放棄」に署名してもらいます。以下に文例を示します。名前を変更して使用してください。

Yoyodyne, Inc. は、James Random Hacker が開発したプログラム「Frob」(ノブをひねるためのライブラリ)の著作権法上の権利をすべて放棄します。

<Ty Coon の署名>、1 April 1990 Ty Coon, President of Vice

以上

BSD ライセンス

次のソフトウェアパッケージは BSD ライセンスに基づいて配布されます。

libpcap

tcpdump

tftp-hpa

著作権表示：

ライセンス：BSD

ソースコード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、次の条件にあてはまる場合のみ許可されます。

1. ソースコード形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を記載する必要があります。
2. バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を、配布物とともに提供される文書と、その他の資料があればその資料に含める必要があります。
3. 作者の名前は、書面による事前の明確な許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を保証または宣伝するために使用することはできません。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、いかなる保証もなされません。

NTP ソフトウェア

NTP ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

Copyright Notice [sheepb.jpg] "Clone me," says Dolly sheepishly

次の著作権表示は、集成的に Network Time Protocol Version 4 Distribution と呼ばれるすべてのファイルに適用されます。個々のファイルに別段に明記されている場合を除き、ファイルに本文が明示的に含まれているかのように、この通知を適用します。

Copyright (c) David L. Mills 1992-2001 本ソフトウェアおよびそのマニュアルの使用、コピー、変更、配布は、その目的や有償無償にかかわらず、上記の著作権表示をすべてのコピーに記載すること、付属マニュアルに著作権表示およびこの使用許諾文を記載すること、書面による事前の明確な許可なくソフトウェアの配布に関する宣伝または広告に University of Delaware の名前を使用しないことを満たす場合のみ許可されます。University of Delaware は、いかなる目的でも、本ソフトウェアの適合性について一切主張しません。本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、いかなる保証もなされません。

以下の個人は Network Time Protocol Distribution Version 4 に部分的に貢献しました。本著作物の作者として通知します。

1. [1] Mark Andrews <marka@syd.dms.csiro.au> Leitch 原子時計制御装置
2. [2] Bernd Altmeier <altmeier@atsoft.de> hopf Elektronik シリアル回線および PCI バス デバイス
3. [3] Viraj Bais <vbais@mailman1.intel.com> および [4] Clayton Kirkwood <kirkwood@striderfm.intel.com> WindowsNT 3.5 へのポート
4. [5] Michael Barone <michael,barone@lmco.com> GPSVME の調整
5. [6] Karl Berry <karl@owl.HQ.ileaf.com> ファイル オプションへの syslog
6. [7] Greg Brackley <greg.brackley@bigfoot.com> WINNT ポートの大幅な改定 recvbuf および iosignal コードを別個のモジュールに整理。
7. [8] Marc Brett <Marc.Brett@westgeo.com> Magnavox GPS クロック ドライバ
8. [9] Pieter Brooks <Pieter.Brooks@cl.cam.ac.uk> MSF クロック ドライバ、Trimble PARSE のサポート
9. [10] Reg Clemens <reg@dwf.com> Oncore ドライバ (現在の保守管理者)
10. [11] Steve Clift <clift@ml.csiro.au> OMEGA クロック ドライバ
11. [12] Casey Crellin <casey@csc.co.za> vxWorks (Tornado) ポートおよび対象コンフィギュレーションの補佐
12. [13] Sven Dietrich <sven_dietrich@trimble.com> Palisade 参照クロック ドライバ、NT 調整の残り、統合された Greg's Winnt ポート
13. [14] John A. Dundas III <dundas@salt.jpl.nasa.gov> Apple A/UX ポート
14. [15] Torsten Duwe <duwe@immd4.informatik.uni-erlangen.de> Linux ポート
15. [16] Dennis Ferguson <dennis@mrbill.canet.ca> RFC-1119 で指定されている NTP Version 2 の基礎コード
16. [17] Glenn Hollinger <glenn@herald.usask.ca> GOES クロック ドライバ
17. [18] Mike Iglesias <iglesias@uci.edu> DEC Alpha ポート
18. [19] Jim Jagielski <jim@jagubox.gsfc.nasa.gov> A/UX ポート
19. [20] Jeff Johnson <jbj@chatham.usdesign.com> 多大なプロトタイピングの見直し
20. [21] Hans Lambersmont <Hans.Lambersmont@nl.origin-it.com> または [22] <H.Lambersmont@chello.nl> ntpsweep
21. [23] Poul-Henning Kamp <phk@FreeBSD.ORG> Oncore ドライバ (最初の作者)
22. [24] Frank Kardel [25] <Frank.Kardel@informatik.uni-erlangen.de> PARSE <GENERIC> ドライバ (14 の参照クロック)、PARSE の STREAMS モジュール、サポート スクリプト、syslog の消去
23. [26] William L. Jones <jones@hermes.chpc.utexas.edu> RS/6000 AIX の修正、HPUX の修正
24. [27] Dave Katz <dkatz@cisco.com> RS/6000 AIX ポート

25. [28] Craig Leres <leres@ee.lbl.gov> 4.4BSD ポート、ppsclock、Magnavox GPS クロック ドライバ
26. [29] George Lindholm <lindholm@ucs.ubc.ca> SunOS 5.1 ポート
27. [30] Louis A. Mamakos <louie@ni.umd.edu> MD5 ベースの認証
28. [31] Lars H. Mathiesen <thorinn@diku.dk> RFC-1305 で指定された Version 3 の基礎コードの改定
29. [32] David L. Mills <mills@udel.edu> Version 4 の基礎 : クロックの抑制、認証、精度の中核。クロック ドライバ : Spectracom、Austron、Arbiter、Heath、ATOM、ACTS、KSI/Odetics。オーディオ クロック ドライバ : CHU、WWV/H、IRIG
30. [33] Wolfgang Moeller <moeller@gwdgv1.dnet.gwdg.de> VMS ポート
31. [34] Jeffrey Mogul <mogul@pa.dec.com> ntprace コーティリテイ
32. [35] Tom Moore <tmoore@fieval.daytonoh.ncr.com> i386 svr4 ポート
33. [36] Kamal A Mostafa <kamal@whence.com> SCO OpenServer ポート
34. [37] Derek Mulcahy <derek@toybox.demon.co.uk> and [38] Damon Hart-Davis <d@hd.org> ARCRON MSF クロック ドライバ
35. [39] Rainer Pruy <Rainer.Pruy@informatik.uni-erlangen.de> モニタリング /trap スクリプト、統計ファイルの処理
36. [40] Dirce Richards <dirce@zk3.dec.com> Digital UNIX V4.0 ポート
37. [41] Wilfredo Sánchez <wsanchez@apple.com> NetInfo の追加サポート
38. [42] Nick Sayer <mrapple@quack.kfu.com> SunOS のストリーム モジュール
39. [43] Jack Sasportas <jack@innovativeinternet.com> html/pic/ subdirectory のデータ スペースを大幅に節減
40. [44] Ray Schnitzler <schnitz@unipress.com> Unixware1 ポート
41. [45] Michael Shields <shields@tembel.org> USNO クロック ドライバ
42. [46] Jeff Steinman <jss@pebbles.jpl.nasa.gov> Datum PTS クロック ドライバ
43. [47] Harlan Stenn <harlan@pfcs.com> GNU automake/autoconfigure の改定、その他のさまざまなビット (ChangeLog を参照)
44. [48] Kenneth Stone <ken@sdd.hp.com> HP-UX ポート
45. [49] Ajit Thyagarajan <ajit@ee.udel.edu> IP マルチキャスト / エニーキャストのサポート
46. [50] Tomoaki TSURUOKA <tsuruoka@nc.fukuoka-u.ac.jp> TRAK クロック ドライバ
47. [51] Paul A Vixie <vixie@vix.com> TrueTime GPS ドライバ、包括的な TrueTime クロック ドライバ
48. [52] Ulrich Windl <Ulrich.Windl@rz.uni-regensburg.de> the HTML DTD に従った HTML ドキュメントの修正と確認

[53] gif

[54] David L. Mills <mills@udel.edu>

References

1. <mailto:marka@syd.dms.csiro.au>
2. <mailto:altmeier@atsoft.de>
3. <mailto:vbais@mailman1.intel.co>
4. <mailto:kirkwood@striderfm.intel.com>
5. <mailto:michael.barone@lmco.com>
6. <mailto:karl@owl.HQ.ileaf.com>
7. <mailto:greg.brackley@bigfoot.com>
8. <mailto:Marc.Brett@westgeo.com>
9. <mailto:Piete.Brooks@cl.cam.ac.uk>
10. <mailto:reg@dwf.com>

11. <mailto:clift@ml.csiro.au>
12. <mailto:casey@csc.co.za>
13. mailto:Sven_Dietrich@trimble.COM
14. <mailto:dundas@salt.jpl.nasa.gov>
15. <mailto:duwe@immd4.informatik.uni-erlangen.de>
16. <mailto:dennis@mrbill.canet.ca>
17. <mailto:glenn@herald.usask.ca>
18. <mailto:iglesias@uci.edu>
19. <mailto:jagubox.gsfc.nasa.gov>
20. <mailto:bjb@chatham.usdesign.com>
21. <mailto:Hans.Lambermont@nl.origin-it.com>
22. <mailto:H.Lambermont@chello.nl>
23. <mailto:phk@FreeBSD.ORG>
24. <http://www4.informatik.uni-erlangen.de/~kardel>
25. <mailto:Frank.Kardel@informatik.uni-erlangen.de>
26. <mailto:jones@hermes.chpc.utexas.edu>
27. <mailto:dkatz@cisco.com>
28. <mailto:leres@ee.lbl.gov>
29. <mailto:lindholm@ucs.ubc.ca>
30. <mailto:louie@ni.umd.edu>
31. <mailto:thorinn@diku.dk>
32. <mailto:mills@udel.edu>
33. <mailto:moeller@gwdgv1.dnet.gwdg.de>
34. <mailto:mogul@pa.dec.com>
35. <mailto:tmoore@fievel.daytonoh.ncr.com>
36. <mailto:kamal@whence.com>
37. <mailto:derek@toybox.demon.co.uk>
38. <mailto:d@hd.org>
39. <mailto:Rainer.Pruy@informatik.uni-erlangen.de>
40. <mailto:dirce@zk3.dec.com>
41. <mailto:wsanchez@apple.com>
42. <mailto:mrapple@quack.kfu.com>
43. <mailto:jack@innovativeinternet.com>
44. <mailto:schnitz@unipress.com>
45. <mailto:shields@tembel.org>
46. <mailto:pebbles.jpl.nasa.gov>
47. <mailto:harlan@pfcs.com>
48. <mailto:ken@sdd.hp.com>
49. <mailto:ajit@ee.udel.edu>
50. <mailto:tsuruoka@nc.fukuoka-u.ac.jp>
51. <mailto:vixie@vix.com>

52. mailto:Ulrich.Windl@rz.uni-regensburg.de

53. file://localhost/backroom/ntp-stable/html/index.htm

54. mailto:mills@udel.edu

OPENS1 ソフトウェア

Openssl ソフトウェアは、OpenSSL Project および Eric Young (eay@cryptsoft.com) のライセンスの条件下で配布されま
す。両方のライセンスが以下に含まれます。

OpenSSL ライセンス

=====
Copyright (c) 1998-2002 The OpenSSL Project. All rights reserved.

ソースコード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、次
の条件にあてはまる場合のみ許可されます。

1. ソースコード形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を記載する必要があります。
2. バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を、配布物とともに提供さ
れる文書と、その他の資料があればその資料に含める必要があります。
3. 本ソフトウェアの機能または使用方法について説明するすべての宣伝資料には、次の通知を記載する必要があります。
「この製品には、OpenSSL Project (<http://www.openssl.org/>) によって OpenSSL Toolkit での使用のために開発されたソ
フトウェアが含まれています。」
4. 「OpenSSL Toolkit」および「OpenSSL Project」の名前は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生
した製品を保証または宣伝するために使用することはできません。書面による許可については、
openssl-core@openssl.org にご連絡ください。
5. OpenSSL Project の書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を「OpenSSL」と呼んだり、そ
の名称の一部に「OpenSSL」を使用することはできません。
6. いかなる形式であれ再配布する場合は、次の通知を記載する必要があります。「この製品には、OpenSSL Project
(<http://www.openssl.org/>) によって OpenSSL Toolkit での使用のために開発されたソフトウェアが含まれています。」

本ソフトウェアは OpenSSL Project により「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品とし
て通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、いかなる保証もな
されません。事由のいかんを問わず、損害発生の原因いかんを問わず、かつ、責任の根拠が契約であるか厳格責任で
あるか（過失その他）不法行為であるかを問わず、OpenSSL Project も寄与者も、仮にそのような損害が発生する可能性
を報告されていたとしても、本ソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的な損害、特別損害、懲
罰的損害または結果損害のいずれに対しても、（代替品またはサービスの提供、使用機会の喪失に対する補償、データ
または利益の損失に対する補償、業務の中断に対する補償を含め）責任を一切負いません。

* =====

本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトが含まれます。本製品には、Tim Hudson
(tjh@cryptsoft.com) が開発したソフトウェアが含まれます。

オリジナルの SSLey ライセンス

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

本パッケージは、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が開発した SSL 実装です。この実装は、Netscape SSL に準拠する
ように開発されました。

以下の制約を厳守する限り、このライブラリは商用および非商業的な目的で自由に使用することができます。以下の
制約は、SSL コードだけでなく、RC4、RSA、lhash、DES など、この配布に含まれるすべてのコードに適用されます。
この配布に付属する SSL マニュアルは、著作権者が Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) であることを除き、同じ著作権
の条件で保護されます。

著作権者は Eric Young のままであるため、コードの著作権表示は削除されません。このパッケージを製品内で使用する場合は、Eric Young をライブラリの使用部分の作者とするべきです。これは、プログラムの起動時に表示されるテキストのメッセージ、あるいはパッケージに付属するマニュアル（オンラインまたはテキスト）に記載することができます。ソースコード形式であれバイナリ形式であれ、本ソフトウェアの再配布および使用は、改変の有無にかかわらず、次の条件にあてはまる場合のみ許可されます。

1. ソースコード形式で再配布する場合、著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を記載する必要があります。
2. バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権表示、本条件書、および下記の免責事項を、配布物とともに提供される文書と、その他の資料があればその資料に含める必要があります。
3. 本ソフトウェアの機能または使用方法について説明するすべての宣伝資料には、次の通知を記載する必要があります。「本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトが含まれます」。使用されるライブラリのルーチンが暗号に関係しない場合は、「暗号」という言葉を省略してもかまいません。
4. apps ディレクトリ（アプリケーションコード）から Windows 固有のコード（またはその派生物）を含める場合は、次の通知を記載する必要があります。「本製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が開発したソフトウェアが含まれます」。

本ソフトウェアは Eric Young により「現状のまま」提供されるものとし、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、いかなる保証もなされません。事由のいかんを問わず、損害発生の原因いかんを問わず、かつ、責任の根拠が契約であるか厳格責任であるか不法行為（過失その他）であるかを問わず、作者も寄与者も、仮にそのような損害が発生する可能性を報告されていたとしても、本ソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的な損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害のいずれに対しても、（代替品またはサービスの提供、使用機会の喪失に対する補償、データまたは利益の損失に対する補償、業務の中断に対する補償を含め）責任を一切負いません。

このコードの公的に入手可能なバージョンまたは派生物のライセンスと配布条件は変更できません。つまり、このコードを単純にコピーして、別の配布ライセンス（GNU 一般公衆利用許諾契約書を含む）に適用することはできません。

PCRE ライセンス

PCRE は、Perl 5 の言語と限りなく近い構文と意味を持つ正規表現をサポートする機能のライブラリです。

開発者：Philip Hazel <ph10@cam.ac.uk>

University of Cambridge Computing Service,

Cambridge, England. Phone: +44 1223 334714.

Copyright (c) 1997-2001 University of Cambridge

誰でも、次の制約に従い、何らかのコンピュータシステムで任意の目的で本ソフトウェアを使用して、自由に改変および再配布することが認められます。

1. 本ソフトウェアは、お役に立てていただくために配布していますが、明示または黙示を問わず、商用品として通常そなえるべき品質をそなえているとの保証も、特定の目的に適合するとの保証も含めて、何の保証もしません。
2. 明示的な主張であれ省略であれ、本ソフトウェアの起源について虚偽の記載をしてはなりません。実際には、商業上またはその他の目的で他者に配布するソフトウェアで PCRE を使用する場合は、次のような文面を記載する必要があります。

正規表現のサポートは、PCRE ライブラリ パッケージにより提供されます。これは Philip Hazel が開発したオープンソフトウェアであり、英国の University of Cambridge が著作権を所有しています。マニュアルおよび関連ファイルまたはオンライン ヘルプ データまたは同様のものに合理的に表示されています。ソースに関する ftp サイトの参照先 (<ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>) もマニュアルに記載する必要があります。

3. 改変したバージョンにはその旨を明示する必要があります。オリジナルのソフトウェアであると虚偽の記載をしてはなりません。
4. GNU 一般公衆利用許諾契約書 (GPL) または劣等一般公衆利用許諾契約書 (LGPL) に基づいてリリースされる任意のソフトウェアに PCRE が組み込まれる場合、当該の契約書の条件は、相容れない上記の制約よりも優先されるものとします。

「doc」ディレクトリで供給される PCRE のマニュアルは、ソフトウェア本体と同じ条件で配布されます。

以上

POSTGRESQL ソフトウェア

PostgreSQL ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

著作権表示 : PostgreSQL Database Management System (旧 Postgres、その後、Postgres95 と改称)

Portions Copyright (c) 1996-2001, The PostgreSQL Global Development Group

Portions Copyright (c) 1994, The Regents of the University of California

書面による合意のない本ソフトウェアとそのマニュアルの無償の使用、コピー、変更、配布は、その目的にかかわらず、上記の著作権表示と本項目および下記の 2 項目をすべてのコピーに記載する場合のみ許可されます。

事由のいかんを問わず、UNIVERSITY OF CALIFORNIA は、仮に損害が発生する可能性を報告されていたとしても、いかなる関係者に対しても、本ソフトウェアおよびそのマニュアルの使用から発生した直接損害、間接損害、特別損害、偶発的な損害、または結果損害 (利益の損失を含む) のいずれにも責任を一切負いません。

UNIVERSITY OF CALIFORNIA は、商用品として通常そなえるべき品質をそなえていること、および特定の目的に適合することに関する黙示的な保証を含めて、一切の保証の責任を負わないものとします。本契約書の下で配布されたソフトウェアは、「現状のまま」配布されるものとし、UNIVERSITY OF CALIFORNIA は保守、サポート、アップデート、拡張、または改変を提供する義務を一切負いません。

TCL ソフトウェア

Tcl ソフトウェアは、下記の著作権と使用許諾の条件の下で配布されます。

著作権表示:本ソフトウェアは、University of California の 評議員、Sun Microsystems, Inc., Scriptics Corporation, ActiveState Corporation、およびその他の関係者により著作権で保護されています。個々のファイルで明示的に責任が放棄されている場合を除き、本ソフトウェアに関連するすべてのファイルに以下の条件が適用されます。

すべてのコピーに既存の著作権表示が記載されており、あらゆる配布にこの通知がそのまま含まれている場合に限り、作者は本ソフトウェアおよびそのマニュアルを任意の目的で使用、コピー、改変、配布、ライセンスすることを許可します。認可を受けた使用については、書面による合意、ライセンス、または使用料は必要ありません。本ソフトウェアの改変は作者により著作権で保護されている可能性があります。該当する各ファイルの 1 ページ目に新しい条件が明記されている場合は、ここで述べる契約条件に従う必要はありません。

事由のいかんを問わず、作者または配布者は、仮に損害が発生する可能性を報告されていたとしても、いかなる関係者に対しても、本ソフトウェア、そのマニュアル、あるいはその派生物の使用から発生した直接損害、間接損害、特別損害、偶発的な損害、または結果損害のいずれにも責任を一切負いません。

作者および配布者は、商用品として通常そなえるべき品質をそなえていること、特定の目的に適合すること、第三者の権利を侵害しないことに関する黙示的な保証を含めて、一切の保証の責任を負わないものとします。本ソフトウェアは、「現状のまま」配布されるものとし、作者および配布者は保守、サポート、アップデート、拡張、または改変を提供する義務を一切負いません。

政府による使用 : 米国政府を代表してソフトウェアを取得する場合は、政府はソフトウェアおよび関連マニュアルに関して Federal Acquisition Regulations (FAR) の 52.227.19 (c) (2) 条で規定されている「制限付権利」だけを有するものとします。国防総省を代表してソフトウェアを取得する場合は、ソフトウェアは「商用コンピュータソフトウェア」と分類され、政府は DFAR の 252.227-7013 (c) (1) 条で規定されている「制限付権利」だけを有するものとします。上記の点にもかかわらず、作者は米国政府およびその代表者に対し、本契約書に明記された条件に従ってソフトウェアを使用および配布する許可を与えます。





A

Administration via Telephone Number フィールド 35
 Administration メニュー 55
 Administrator フィールド 32
 Authentication ウィンドウ 28, 42, 45
 Auto Attendant Access Number フィールド 35
 Auto Attendant Operator Extension フィールド 35
 Auto Attendants オプション 54
 AVT、グリーティングの録音 14

B

Backup History レポート オプション 57
 Backup/Restore オプション 55
 Blank password フィールド 34
 Blank PIN フィールド 34
 Business Hours Settings オプション 54

C

Call Handling ウィンドウ 34
 Call Handling オプション 54
 CallManager Express オプション 53
 Cisco CallManager
 ルータ クロック 57
 Cisco CME
 IP パス コマンド 8, 9
 Web 管理者 9
 説明 18
 フラッシュ メモリ ファイル 8
 ルータ 18
 Cisco Unity Express
 アイコン 58
 ウィンドウ 28
 管理者 25
 説明 18

CiscoWorks configmaker 13
 CLI 17
 CME Password フィールド 30
 CNS/SNAP 13
 Commit ウィンドウ 35
 Configure メニュー 52, 53
 Confirm new password フィールド 43
 Current password フィールド 43
 Current Settings ウィンドウ 29

D

Defaults ウィンドウ 33
 Defaults メニュー 56
 Distribution Lists オプション 54
 DNS サーバ 55
 Domain Name Settings オプション 55

E

ephone 10
 ephone-dn 10
 Extensions オプション 53

F

Find アイコン 60
 FTP サーバ 6, 55

G

G.711 u-law 9, 14
 Groups オプション 53
 GUI 17
 URL 45
 Web ブラウザの URL 28

- 管理 17
- トラブルシューティング 69

- H
- Help メニュー 57
- Holiday Settings オプション 54
- Home ウィンドウ 52
- Hostname フィールド 30

- I
- Import CME Users ウィンドウ 30
- Initialization Wizard Status ウィンドウ 37
- Initialization ウィザード
 - ウィンドウのボタン 27
 - 必須データ 24
- Internet Explorer
 - バージョン 23, 41
 - パッチ 41
- IP
 - Cisco CME のパス 8, 9
 - アドレス、Cisco Unity Express モジュール 11
 - アドレッシング、トラブルシューティング 68
 - モジュールのアドレス 25
- IP ネットワーク アクセス 6
- IP ネットワークを使用したシステム アクセス 6

- L
- Linux
 - システム アクセス 13
- Linux ソフトウェア 5
- Logged Out ウィンドウ 43

- M
- Mailbox Size フィールド 34
- Mailbox デフォルト オプション 56
- Mailbox フィールド 32
- Mailboxes オプション 54
- Maximum Caller Message Size フィールド 34
- Message Expiry Time フィールド 34
- Message Waiting Indicators オプション 54

- MWI
 - 内線 10
 - ライト、トラブルシューティング 68
- MWI off Number フィールド 35
- MWI on Number フィールド 35
- My Profile オプション 53

- N
- Network Time & Time Zone Settings オプション 55
- Network Time Protocol レポート オプション 57
- Networking Locations オプション 55
- New password フィールド 43
- NTP サーバ 55, 57

- O
- OIR、制限 12

- P
- Password & PIN options フィールド 33
- Password Expired ウィンドウ 42, 43
- Password フィールド 28, 45
- Phones オプション 53
- PIN
 - 新規ユーザのポリシー 24, 25
 - ランダム 25
- Primary Extension フィールド 32
- Prompts オプション 54

- R
- Remote Users オプション 53
- Reports メニュー 56
- Restore History レポート オプション 57

- S
- Save Configuration オプション 55
- Scripts オプション 54
- Set CFNA/CFB フィールド 33
- SIP ダイアル ピア 9
- SKU 15, 16
- SNMP 13

Sort アイコン 60
 Synchronize Information オプション 55
 System Parameters オプション 53
 System レポート オプション 57

T

Traces オプション 55
 TUI、グリーティングの録音 14

U

UPS 8
 URL
 GUI access 45
 GUI の Web ブラウザ 28
 User Name フィールド 28, 30, 43, 45
 User デフォルト オプション 56
 Users オプション 53

V

Voice Mail Number フィールド 35
 Voice Mail Operator Extension フィールド 35
 Voice Mail デフォルト オプション 56
 Voice Mail メニュー 54
 Voice Mail レポート オプション 57

W

wav ファイル 14
 web
 管理者 9, 19
 ブラウザ ソフトウェア 23, 41
 ブラウザの URL 28

あ

アイコン
 Find 60
 Sort 60
 リスト 58
 アクティビティ タイマー 26

い

インストール、トラブルシューティング 68

う

ウィンドウ

Authentication 28, 42, 45
 Call Handling 34
 Cisco Unity Express 28
 Commit 35
 Current Settings 29
 Defaults 33
 Home 52
 Import CME Users 30
 Initialization Wizard Status 37
 Logged Out 43
 Password Expired 42, 43

お

オプション

Auto Attendants 54
 Backup History レポート 57
 Backup/Restore 55
 Business Hours Settings 54
 Call Handling 54
 CallManager Express 53
 Distribution Lists 54
 Domain Name Settings 55
 Extensions 53
 Groups 53
 Holiday Settings 54
 Mailbox デフォルト 56
 Mailboxes 54
 Message Waiting Indicators 54
 My Profile 53
 Network Time & Time Zone Settings 55
 Network Time Protocol レポート 57
 Networking Locations 55
 Phones 53
 Prompts 54
 Remote Users 53
 Restore History レポート 57
 Save Configuration 55
 Scripts 54

- Synchronize Information 55
 - System Parameters 53
 - System レポート 57
 - Traces 55
 - User デフォルト 56
 - Users 53
 - Voice Mail デフォルト 56
 - Voice Mail レポート 57
 - オプション初期グリーティング 11
 - オペレータの内線番号 26
 - オンライン ヘルプ 63
- か
- 格納域の合計時間 15, 16
 - 格納域の時間 15, 16
- 数
- 同時管理者 12
 - 同時ユーザ 12
 - ポート 15, 16
 - メールボックス 15, 16
- 活性挿抜、制限 12
- 管理
- GUI 17
- 管理者
- Cisco CME 19
 - Cisco Unity Express 19, 25
 - web 19
- く
- グラフィカル ユーザ インターフェイス 17
 - グリーティング
 - 制限 12
 - 録音、オプション 11
 - グリーティングの録音
 - AVT 14
 - 自動受付 14
- こ
- コール エージェント 18
 - コマンド
 - IP パス 8
 - コマンドライン インターフェイス 17
- し
- システム
- CPU 57
 - ハードウェア 57
 - システム レポート 6
 - システム ログ ファイル 6
 - システムの制限
 - ファクトリ セット 15
 - システムの容量 15, 16
 - 自動受付
 - AVT 14
 - グリーティングの録音 14
 - 電話番号 26
 - 自動プロビジョニング 13
 - 使用言語の制限 12
- す
- スクリプト
- エディタ ソフトウェア 14
 - 作成 14
 - ファイル サイズ 14
 - スクリプトのエディタ 14
- せ
- 制限
- CiscoWorks configmaker 13
 - CNS または SNAP での自動プロビジョニング 13
 - Linux システム アクセス 13
 - OIR 12
 - SNMP での管理 13
 - 管理者 12
 - グリーティング 12
 - 使用言語 12
 - 選択的なバックアップ 13
 - 選択的な復元 13
 - ハード ディスクの置換 12
 - バックアップ 13
 - 日付と時刻 12
 - 復元 13
 - メッセージ格納域の一元化 13
 - モジュール 12
 - ユーザ 12

- セキュリティ ポリシー 25
- 設定
 - ephone-dn 10
 - ダイヤル ピア 9
- 選択的なバックアップの制限 13
- 選択的な復元の制限 13

- そ

- 相違点
 - パスワード 19
 - ボイス アプリケーション 19
 - ユーザ ID 19
- 相互作用
 - Cisco Unity Express と Cisco CME 18
- ソフトウェア
 - リロード 55
 - ソフトウェアのリロード 55

- た

- タイマー、システム 27
- ダイヤル ピア 9

- つ

- 通常のシャットダウン 8

- て

- データ
 - 検索 60
 - 並べ替え 60
 - データの検索 60
 - データの並べ替え 60
 - データベース
 - 同期 10
 - データベースの同期 10
 - データをアルファベット順に配列 60
 - デフォルト
 - メールボックス サイズ 25
 - メッセージ格納時間 26
 - メッセージ長 26
 - デフォルト メールボックス サイズ 15, 16

- 電話番号
 - オペレータ 26
 - 自動受付 26
 - ボイスメール 26

- と

- 統合
 - Cisco Unity Express と Cisco CME 18
 - ドメイン名 55
 - トラブルシューティング
 - GUI 69
 - IP アドレッシング 68
 - MWI ライト 68
 - インストール 68
 - トレース データ 55
 - バックアップ 68
 - 日付と時刻 68
 - 復元 68
 - 紛失するデータ 69

- ね

- ネットワーキング 17
- ネットワーク モジュール
 - 制限 12
 - 予備の 5
- ネットワーク モジュール カード
 - ソフトウェア 5
 - プロセッサ 5

- は

- ハード ディスク、置換の制限 12
- 配置
 - Cisco Unity 18
 - Cisco Unity Express 18
- 初めてのログイン 42
- パスワード
 - 使用できる文字 19
 - 新規ユーザのポリシー 24, 25
 - ランダム 25, 38
- バックアップ
 - 制限 13
 - 選択的な 13

- トラブルシューティング 68
- バルク プロビジョニング 6
- ひ
- 日付と時刻
 - 制限 12
 - トラブルシューティング 68
- ふ
- ファースト イーサネット ポート 12
- ファクトリ セット システムの制限 15
- フィールド
 - Administration via Telephone Number 35
 - Administrator 32
 - Auto Attendant Access Number 35
 - Auto Attendant Operator Extension 35
 - Blank password 34
 - Blank PIN 34
 - CME Password 30
 - Confirm new password 43
 - Current password 43
 - Hostname 30
 - Mailbox 32
 - Mailbox Size 34
 - Maximum Caller Message Size 34
 - Message Expiry Time 34
 - MWI off Number 35
 - MWI on Number 35
 - New password 43
 - Password 28, 45
 - Password & PIN options 33
 - Primary Extension 32
 - Set CFNA/CFB 33
 - User Name 28, 30, 43, 45
 - Voice Mail Number 35
 - Voice Mail Operator Extension 35
- 復元
 - 制限 13
 - 選択的な 13
 - トラブルシューティング 68
- プロビジョニング
 - バルク 6
- 紛失するデータ、トラブルシューティング 69
- ほ
- ボイスメール
 - 電話番号 26
 - ネットワーキング 17
 - ログアウト 47
- ポート
 - 数 15, 16
 - 制限 12
 - ファーストイーサネット 12
- ホスト名 55
- ボタン、Initialization ウィザードのウィンドウ 27
- ポリシー
 - PIN 25
 - セキュリティ 25
 - パスワード 25
- む
- 無停電電源 8
- め
- メールボックス
 - 数 15, 16
 - デフォルト サイズ 25
- メールボックス サイズ
 - デフォルト 15, 16
- メッセージ
 - 格納域の制限 13
 - デフォルト格納時間 26
 - デフォルト長 26
- メッセージ格納域の一元化 13
- メニュー
 - Administration 55
 - Configure 52, 53
 - Defaults 56
 - Help 57
 - Reports 56
 - Voice Mail 54
- も
- モジュール
 - IP アドレス 11, 25
 - 制限 12

ゆ

ユーザ ID

- 使用できる文字 19

- ランダム 38

- ユーザと電話機の作成 10

よ

- 予備のネットワーク モジュール 5

ら

ライセンス

- SKU 5

ランダム

- PIN 25

- パスワード 25, 38

- ユーザ ID 38

る

ルータ

- Cisco CME 18

- コール エージェント 18

れ

レポート

- Backup History 57

- Network Time Protocol 57

- Restore History 57

- System 57

- Voice Mail 57

- システム 6

ろ

ログ ファイル

- システム 6

- ログアウト、ボイスメール 47

- ログイン、初めて 42